関東ゴルフ連盟機関誌

KGAニュース

目 次

ごあいさつ
KGAニュース創刊に寄せて……1
（関東ゴルフ連盟理事長・高田市太郎）
話題のコーナー
JGAハンディキャップの普及にあたって……2
（関東ゴルフ連盟ハンディキャップ委員会委員長・武内俊三）
ルールQ＆A……5
競技・KGA・競技リポート（7月～10月）
第3回関東ジュニア・ゴルフ選手権予選・決勝……8
昭和57年度夏季ジュニア初心者ゴルフ教室……10
'82関東オープンつれづれ……11
関東オープンを終わって……13
第29回関東シニア・ゴルフ選手権競技……14
第28回関東女子ゴルフ選手権競技……17
連盟常務理事会……20
委員会だより……22
昭和57年9月男子月例成績表……24

No.1

ごあいさつ

KGAニュース創刊に寄せて

関東ゴルフ連盟
理事長　高田市太郎

今回待望のKGA（関東ゴルフ連盟）機関誌『KGAニュース』が創刊されまして、その第1号が皆様に、お目見えいたしました。御同慶に堪えません。

当然出るべきものが出たと申せましょうが、KGAが日本ゴルフ協会の傘下にあって、加盟クラブ327に及ぶ日本最大の地区連盟であるという立場に鑑みましても、このような機関誌は、もっと早くから、あるべきものであったといえましょう。そういう意味で「待望の機関誌」が生まれたと申す次第であります。

さて、この機関誌の役割は、何かといえば、それは申すまでもなく本連盟（KGA）が目的とする『ゴルフの栄誉ある伝統の精神並びに健全なる国民的スポーツとしてのゴルフを普及発達させるとともに、連盟加入の各クラブ及び、その会員相互の親睦を図る』という趣旨に沿うメディア的役割であります。

そして、そのメディアの役割は多種多様であります。具体的にいえば、連盟加入各クラブや一般ゴルファーとのコミュニケーション、ゴルフ関係情報の提供 または 交換、ゴルファーのエティケットやマナーの高揚を含むフェアプレー及びスポーツマンシップ精神の涵養（カンヨー）及び昂揚、ゴルフの社会的存在価値の宣揚等々であります。

ゴルフは、かつては特権階級の遊びといわれ、老人のゲームともいわれた時代がありました。しかし、それはもはや前世紀的な時代錯誤の思想であります。

ゴルフは今や、日本国民の日常生活と切り離すことの出来ない健全な大衆的スポーツであり、リクリエーションであります。このことは、日本のゴルフ人口が、今や推定1,200万余といわれ、全国のゴルフ・コースでプレーするゴルファーの延べ人口は年間6,000万人をはるかに越えており、なおかつ、全国に散在する3,300余のゴルフ練習場で練習するゴルファーの数が、年間延べ5,800万人余に及んでいるという事実によって端的に証明されていると思います。しかも、このゴルフ人口は昨今なお急速に増大の傾向にあります。

これを日本の人口1億3,000万余と対比してみますと、わが日本におけるゴルフが如何に広く深く国民の間に普及され愛好されているかを雄弁に物語っております。

しかし卒直に申して、ゴルフがわが日本において、真に国民的、大衆的スポーツとして一般に評価され、受けいれられるまでには、なお、大きな問題があります。その問題は、国民の誰もが、もっと手軽に、安直にゴルフを楽しめる環境がつくられなければならないということであります。そのためには、われわれゴルフ関係者のみならず、政治家等も含む各層の人々が、国民的課題として反省し、努力することが要請されます。

機関誌のマスコミ的活動は、この方面にも期待したいものであります。なお機関誌の刊行を可能にされた各方面関係者の御支援とその編集を担当された広報委員会委員諸氏の御協力に心から感謝いたします。

話題のコーナー

JGAハンディキャップの普及にあたって

関東ゴルフ連盟
ハンディキャップ委員会
委員長　武内俊三

関東ゴルフ連盟（ＫＧＡ）が現在実施されているハンディキャップ・システムを採用したのが、昭和52年６月28日であり、その後、日本ゴルフ協会（ＪＧＡ）がこのシステムに切替えたのが昭和53年９月４日、そして全国的な完全実施の期日は昭和56年１月よりと定められていた。しかし、このハンディキャップ規定の改正以来、すでに５年の歳月を経過していながら、このＪＧＡハンディキャップの実施状況は、予想外に悪かった。

関東ゴルフ連盟のハンディキャップ委員会がこの７月に加盟クラブのハンディキャップ実施状況の調査を行なったが、加盟325クラブのうち、回答があったのが250クラブ、それも未回答クラブに事務局から何度も催促させてやっと集まったのがこの250クラブで、回答率はやっと78パーセントに過ぎなかった。つまり、残りの70数クラブは催促したのにもかかわらず、音沙汰無しである。もともと、こういった調査に対する回答率はそれほど良くないが、それにしても、あまりに無関心なクラブが多過ぎるような気がする。

この集計によると、ＪＧＡハンディキャップをすでに実施中と回答があったのが138クラブ、実施予定が26クラブ、実施予定無しは41クラブとなっている。しかし、未回答クラブの中でも、すでにこのシステムに切替えた旨の通知があったクラブを計算に入れると、実施クラブの総数は211クラブとなり、加盟クラブ中の３分の２に達する。残りの３分の１が未実施クラブということになるわけだが、すでに実施中と回答のあったクラブでも、今度の調査ではその実施内容にいささか疑問を感じさせられるものが多い。

別に掲げた実施調査表を見ていただければわかる通り、ＪＧＡハンディキャップの改定時期については、「会員の自由意志」欄に記入のあったものが23クラブもあった。いくらなんでも上達がはっきりした者まで、本人からの改正申し出を待っているわけではなかろうから、これはハンディを多くしてもらいたい人達の改定についてであろう。これはＪＧＡシステムで実際の計算上、ハンディキャップが多くなっていても、ハンディキャップを増やす改定を保留しているクラブだからである。

今さらいうまでもなく、ＪＧＡハンディキャップ・システムは、その人の最新の20ラウンド中のベスト・カード10枚を選び、そのアベレージの96パーセントをその人のハンディとするもので、それぞれの人の最近のプレーの傾向をそのまま反映させる最も合理的なハンディキャップです。しかしそれがハンディを少なくすることは実施しても、増やすことを実施しなければ、公平であるべきJGAハンディキャップ体系はくずれてしまう。

スコア・カード提出状況を見ても、ラウンド毎の提出実施が63クラブ、これは良いのだが、「競技カードのみ集計」が13クラブ、「会員の自由意志」というのが実に83クラブもあったのは意外だった。競技カードのみではもちろんそれぞれの人のアベレージを算定できるわけはなく、公平なハンディキャップを期待するわけにはゆかない。しかし「会員の自由意志」となると、名誉を重んずる人は良いスコアの時だけ提出し、実利を狙う人は悪いスコアだけを出すような事が起ります。これはそれぞれ個人に自分のハンディキャップを操作させるようなもので、公平なハンディキャップどころか、かえって最も不公平なハンディキャップになるのが当然です。

ＪＧＡハンディキャップは全員に全スコア・カードの提出をさせて、はじめて公平なハンディキャップが決められます。このスコア・カード提出を「会員の自由意志」とか「競技カードだけ」という中途半端な実施では、かえってハンディキャップを混乱させるだけとなるのです。

中には「全員に全スコア提出を求めるなんて無理なこと」と実施前から決めてかかっているクラブもあるようです。しかし、実際には全カード提出を実現し、ハンディキャップのトラブルも無しに順調に実施しているクラブもあります。つまり、完全実施をするかしないかは、クラブ指導層、およびハンディキャップ委員会の断固たる姿勢が必要なのではないかと思います。

加盟クラブの３分の１に達する未実施クラブの場合、未実施の理由としてあげられている点は、ほとんど似たりよったりだが、その云うところはいずれも視野がせまく、自分のクラブさえ良ければ良いという考え方のものが多かった。

未実施クラブの中で、ＪＧＡハンディキャップ・システムを実施しない理由として回答して来たものをここで列記してみよう。

(1)　全国統一のハンディキャップの趣旨は結構だが、公式戦はスクラッチ競技ばかりで、アンダー・ハンディの競技は実施されていないから、統一ハンディの必要はない。

(2)　クラブ内の競技に関する限り、旧ハンデで何等不都合はなく、ＪＧＡシステムより更にきめ細かなハンディ決定が行なえる。

(3)　ＪＧＡシステムは「ゴルファーに悪人なし」の前提に立脚しているが、善悪は問わずとも大幅な個人裁量の余地があり、クラブ競技等で無用の混乱を生じる恐れがある。

(4)　会員数が多いため、規定実施にはかなり混乱が予想され、旧ハンディで順調にいっているので、特に変更の必要が認められない。

こういったところが実施反対の重立った理由だが、これらはいずれもゴルフ界全体という大局を見ていないし、かつまた新ハンディキャップ・システムの合理性に顔を背け、枝葉末節にこだわって独善に陥っているといえよう。

ゴルフに欠かせないのは、厳正なルールと公平適正なハンディキャップです。特にアマチュアにとってハンディキャップが適正でなければ、ゴルフ競技は成立ちません。特に最近は国際的にも国内でも、ゴルフの交流は盛んに行なわれており、１クラブ内だけで通用すれば良いというプライベートなものでなく、全国的に通用するオフィシャルなハンディキャップが要望されているのです。選手権に出るか出ないかだけを対象にハンディキャップを考えるべきではない。

(2)　のクラブ内では「何等不都合がない」という考え方は、正に独善的であり、ハンディキャップが適正かどうかの規準は何もなく、ただ単に個人の思い込みにしかすぎないのではなかろうか。これこそプライベート会と変りないもので、クラブとしてはもう少し格式を持ってほしいものである。

(3)　の「ＪＧＡシステムには個人裁量の余地がある」というのも、スコア・カードの提出をプレーヤーの自由意志などと中途半端なやり方をすることから生れます。全スコアの提出が義務づけられていれば、個人裁量の余地は無くなるし、それでも個人裁量の形跡があれば、その時こそ“ハンディキャップ委員会の権限”を発動すれば適正化できましょう。そうすれば同じ人がいつまでも個人裁量を繰り返すわけにはゆきますまい。

(4)　の「会員数が多いために切替に混乱を起すから」という理由も、今までの例ではあまり混乱はありません。混乱が起るとすれば、切替え始めて５枚の提出カード中、ベスト・カード１枚で査定をはじめれば、全部出揃って20枚中のベスト10枚で査定されるまでは、いくらか混乱は起り得ましょう。しかし、ＫＧＡがこのシステムを採用してから既に５年を経過しています。若しそのクラブにやる気があるば、会員のほとんどは20枚どころか40～50枚はスコア・カードがたまっている筈です。すべての会員のスコア・カードが20枚以上になった時点で、一斉にＪＧＡハンディキャップに切替えれば、そんなに混乱は起らないで済んでいたでしょう。また、こういった会員数の多いクラブの手間を省くため、ＫＧＡはコンピューターを導入、グリーンシステムを開発しております。

結局、こういったクラブのハンディキャップ委員会が、もう一度、虚心担懐に最も合理的で公正なハンディキャップとは何であるかを考え直し、かつゴルフ界全体の中の加盟クラブとしての責務を自覚してくださって、クラブ全体でこのＪＧＡハンディキャップの実施に取組んでいただきたいものである。ご協力をお願いいたします。

ハンディキャップ査定実態調査表（該当欄に○をつけて下さい）関東ゴルフ連盟

JGAハンディキャップ規定実施状況について

1．すでに実施中……183
2．実施予定……26
　実施予定期日　昭和　年　月　日
　　a．KGAコンピューター活用
　　b．クラブ独自のコンピューター活用
　　c．クラブでの手計算処理
2．実施予定なし……41
　　その理由

JGAハンディキャップ規定実施クラブについて

実施方法　1．KGAコンピューター活用……90
　　2．クラブ独自のコンピューター活用……10
　　3．クラブでの手計算処理……83
クラブ会員総数　　名
会員のホームクラブ取得者数　　名
JGAハンディキャップ取得者数　　名
JGAハンディキャップ改定時期
1．毎月1回……100
2．3ヶ月以内に1回……15
3．その他　ヶ月1回……36
4．会員の自由意志……23
スコア・カード提出状況
1．ラウンド毎の提出実施……63
2．競技カードのみ集計……13　2.3併用……18
3．会員の自由意志……83

他クラブでプレーしたスコア・カードの提出状況
1．提出を義務づけている……19
2．会員の任意……143
3．認めない……11
クラブ競技に強烈なアンダー・パーで入賞した者の扱い
1．特に何もしない（JGAハンディキャップの計算通り）……41
2．入賞スコアを2枚～3枚に追加して計算する……56
（急速な上達者の項を適用）
3．クラブ内限定ハンディを決定する……64　2.3併用……5
（有効期間　ヶ月）
他クラブ登録メンバーの扱い
1．JGAハンディ実施クラブはそのまま承認……149
2．JGAハンディを一切認めない……9
3．グリーンシステムのみ承認、手計算は認めない……7
他クラブ登録メンバーが強烈なアンダー・パーで入賞したとき
1．ホーム・クラブに通告、検討をうながす……8
2．ホーム・クラブよりデーターを取り寄せて検討……11
　　2.4併用……3
3．クラブ内限定ハンディの決定……9．　3.4併用…3
4．会員にホーム・クラブへのスコア提出をうながす……31
スコア・カードを提出しない者の扱い
1．ハンディキャップ取消……19　1.2併用……2
2．従来のクラブ・ハンディキャップを適用……38
　　2.3併用……12
3．クラブ競技に出場（入賞）させない……94
その他　ご意見ご要望等特記事項がありましたらご記入下さい。

KGAニュースの創刊に当って

関東ゴルフ連盟広報委員会
委員長　武内　俊三

この度、関東ゴルフ連盟の機関誌として〝KGAニュース〟を発刊することになりました。当委員会がその編集を担当し、年に4回、季刊の形式で発行してまいりますが、既に機関誌の必要性は多くの方々から要望されていたことでもあり、そのご期待に添うべく、鋭意努力してまいりたいと考えます。

創刊号は、ご覧の通り準備の至らなさもあって、十分な内容とは申せませんが、高田理事長を始め関係者各位の貴重な玉稿を得て面目を保つことができました。

本誌発刊の目的は、理事長が巻頭に述べられた通りで、栄誉ある伝統を持つ国民的スポーツとしてのゴルフを、更に普及発展させるため、加盟各クラブとその会員相互の親睦を深め、これまで個別に郵便によってなされていたKGA諸行事の予告や報告を、本誌を通じ一本化して合理的に行なうところにあります。

具体的な内容としては、KGA主催各競技リポートの掲載、連盟加入クラブ情報の伝達、理事会・委員会議事の報告などが中心となりますが、とかく陥りがちなマンネリ化を避け、加盟クラブとその会員が、真に必要とする情報伝達メディアとしての役割りを、ダイナミックに果していきたいと考えます。

そのためには、加盟各クラブからの活発な要望と会員各位のご意見やご投稿が、その礎石となるものであり、本誌が、日本最大の地区連盟であるKGAの、健全な運営を推進する発言の広場となるよう、皆様の暖かいご支援とご協力を切にお願いいたします。

ルールQ&A

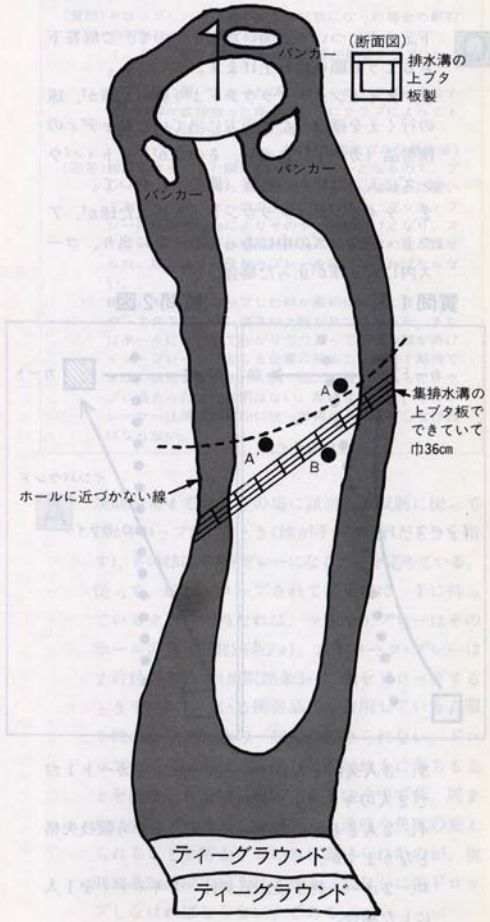
JGA規則及びアマチュア資格審査委員会に寄せられた各地ゴルフ倶楽部からの質問に対する回答をお知らせします。

Q グリーン上の損傷修理について
ゴルフ規則第35条第1項Cによればプレーヤーまたは、そのパートナーは、古いホールの埋跡または球の落下の衝撃によるグリーン上の損傷に限り修理することができると規定し、その他の損傷例えばゴルフ靴のスパイクによるもの等については認めていませんがローカル・ルールで規則以外の損傷について修理を認めることは規則違反になるかどうかご教示下さい。

A ローカル・ルールで本規則で認めている以外のグリーン上の損傷を修理することは許すべきでなく、また規則36条7bにて規則に定めてある罰をローカル・ルールで削除してはならないことも定めている。
第1章エチケットにおいて、ゴルフ靴のスパイクによるグリーン上の損傷は、そのホールの終った後で修復しておかなければならないと定めている如く、プレーヤーのエチケットの不足をローカル・ルールで補うべきでない。
プレーヤーはグリーンに到達したときに見た状態のままにて、そのホールのプレーを終らなければならない事が原則である。

Q 動かせない障害物に際し、そこより球を救済しようとした場合の、障害物の上・中・下を通して測ってはならないという、第31条2bの㊟貴社発行のThe Rules of GOLF 74頁の注に関して意見が二つになりましたので、日本ゴルフ規則委員会にぜひ御答えしていただきたく、質問致します。
別紙の状態で
A点に球が止まった場合の球の救済を受けようとした場合に、集排水溝で上に板をはって十分に歩ける様にした場合の溝ブタの場合には通路と判断できるのかどうかという事です。
もし通路となればB点がホールに近づかず障害が避けられ、前位置に最も近い点が求められるわけですが、救済地点はBではなくA′の点が正しいという判断の二点になったからであります。弊社には3番ホールは集水路（上ブタなし）。5番ホールにも10番ホール（別図）のように上ブタを取りつけてある所があり、今後の正しい処置を実行したい為にも弊社10番ホールに関して多忙中誠に申し訳ございませんが、おこたえ下さいますようお願い申し上げます。

佐世保カントリー倶楽部10番ホール（左ドッグレッグ）



A 板製の排水溝の蓋は、規則31条２に該当する動かせない障害物であり、全２ｂの(1)に基いて救済を受けなければならない。米示の図面の状況では、ホールに近づかず、障害物からの障害を避け、球のあった所から最も近い地点はA′点（同封図面）となるであろう。従って、拾い上げた球はA′点からホールに近づかずに１クラブ・レングス以内でドロップしなければならない。

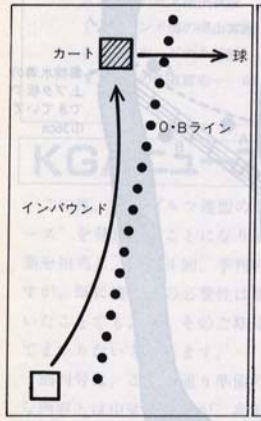
注：ホールの中間を横切る排水溝に被せた蓋を道路とすることは適切と思えない。また、蓋ができる排水溝ならば暗渠にするのが好ましい。

Q 下記の点について質問いたしますので、ご解答下さるようお願い申し上げます。

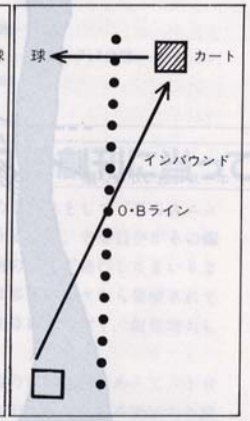
１．テイイング・グラウンドより打った球が、球の行くえを確認のため前方に出ていたキャディの携帯品（カート）に当り、その球がアウト・バウンズに入った場合の処置（罰打）について。

２．テイイング・グラウンドより打った球が、アウト・バウンズの中にあったカートに当り、コース内に入り球が止った場合。

質問１図



質問２図



３．３人又は４人のプレーヤーに電動カート１台で２人のキャディが付いた場合。

イ．２人とも共用のキャディであるから競技失格となりますか。

ロ．２ホール終了後、気が付いてキャディを１人にした場合。

A 回答１．(A)　マッチ・プレーの場合

①そのキャディが自己のキャディであったならば、そのプレーヤーは規則26条２ａによりそのホールを失う。

②そのキャディが相手のキャディであったならば罰はなく、規則26条２ｂに基きそのプレーヤーは相手が次のストロークをする前にそのストロークを取り消し、ティから再プレーすることができる。

(B)　ストローク・プレーの場合

①そのキャディが自己のキャディであったならば、その競技者は規則26条３ａにより２打の罰が課せられ、規則29条１ａに基いて球がアウト・バウンズになったときの処置をとらなければならない。

②そのキャディが同伴競技者のキャディであったならば、その競技者は規則26条１ａに定めるラブ・オブ・ザ・グリーンであってキャディに球を当てた罰はないが、規則29条1aに基いて球がアウト・バウンズになったときの処置をとらなければならない。

回答２．(A)　マッチ・プレーの場合

①そのカートが自己のカートであったならば、そのプレーヤーは規則26条2aによりそのホールを失う。

②そのカートが相手のカートであったならば罰はなく、そのプレーヤーは規則26条2bに基いて、その球の止まった所からプレーを続けるか、または相手が次のストロークをプレーする前にそのストロークを取り消しティから再プレーすることができる。

(B)　ストローク・プレーの場合

①そのカートが自己のカートであったならば、その競技者は規則26条3aに基き２打の罰が課せられ、球の止まった所からプレーを続けなければならない。

②そのカートが同伴競技者のカートであったならば、競技者は規則26条3bが適用され、罰なしに球の止まった所からプレーを続けなければならない。

回答３．委員は規則36条7aおよび7bに従ってローカル・ルールを制定する権限はあるが、規則に定めている罰を削除してはならないことを定めている。従って、３人または４人のプレーヤーに電動カート１台で２人のキャディをつけるローカル・ルールは、規則37条２で定める失格の罰を削除したものであり、本委員会としては適切なローカル・ルールとは認められない。

しかし乍ら、何等かの特殊な事情がおこり、止むを得ず斯かるローカル・ルールで競技を行わせた場合、それに従ってプレーしたプレーヤーに罰を課することはできない。ただし、プレーヤー達の意思で余っているキャディを雇った場合は、規則37条２の違反となり競技失格となる。

Q 練習ストロークについて

１ホールのプレー中は、プレーヤーはいかなる練習ストロークも行なってはならない（ゴルフ規則第８条１）と規定されていますが

１．正規の球を使用しない限り練習ストロークに該当しないものかどうか。

２．練習する意志があれば正規の球でなくても、（例えばコース内に落ちている松かさでも）練習ストロークに該当するものかどうかご教示下さい。

A １．規則８条１にて、１ホールのプレー中は、いかなる練習ストロークも行なってはならないことを定めている。この練習には規則２条３で定める規格に合致した球を使用することは勿論、規格外のゴルフ・ボール、プラスティック製の球、ゴム製または毛糸製の球等を用いてストロークすることは全て練習ストロークと見做される。

２．コース内に落ちている松カサ、ドン栗または生えている茸等をクラブ・ヘッドで打ち飛ばしても通常練習ストロークとは見做されないが、ＵＳＧＡ裁定55－17の如き状況ではプラスティックの球に代えて松カサを使用しても練習ストロークと裁定すべきであろう。

１ホールのプレー中の練習に関しては、ゴルフ規則裁定集（USGA裁定集訳）の規則８条の１の各裁定を参考とされたし。

Q 先般送付されましたJGA裁定-3（西条ゴルフ倶楽部質問）の回答と合わせてドロップした球がどの時点でインプレーとなるかです。

①球が手から離れたとき

②球が地上に落下したとき

③球が規定の範囲内に止まったとき

前記のいずれでしょうか、又はその他でしょうか。規則第22条2-aには「ドロップで球が地上に落ちる前にプレーヤーに触れると罰なしに再ドロップしなければならない……」とあり前記③がインプレーとなる時点と考えます。ところがJGA裁定-3の質問１、２に対し回答には第26条を適用しています。すでにインプレーの球としていることです。プレーヤーの持っているクラブも本人の携帯品であり、本人同様とみなして22条2-a により無罰再ドロップが適用ならないものでしょうか？　裁定-3の回答をみるかぎりドロップした球がインプレーとされるのは前記①と読みとれます。とすれば22条2-aの内容と矛盾しないものでしょうか。ご回答のほどよろしくお願い申し上げます。

（質問）ドロップした球が次のような状態になった場合の罰打の有無について御教示賜りたい。

１．クラブを持ってドロップした球が直接クラブに当った場合。

２．地面に置いてあったプレーヤーのクラブにドロップした球が直接当った場合、並びにクラブによってドロップした球が止められた場合。

（質問：西条ゴルフ倶楽部）

（回答）球はドロップした瞬間にイン・プレーとなるので、プレーヤーが手に持っていたクラブあるいは地上に置いてあったプレーヤーのクラブに当たると、マッチ・プレーは規則26条2aによりそのホールの負けとなり、ストローク・プレーは規則26条3aにより２打の罰が課せられ、球の止った所からプレーを続けなければならない。

例外。もし、ドロップした球が最初に地上に落ちた所から２クラブ・レングス以上転がりつつあるか、またはホールに近づいて転がりつつあって、その球が再びイン・プレーの球となる位置に戻ることが全く期待できない状態が証明された後で地上に置いてあったクラブに当たった場合は罰はない。斯様な場合は、そのプレーヤーは規則22条2cに従って再びドロップしなければならない。

A 規則22条４では、その場に該当する規則に従って球がドロップされたとき（球が手から離れたときを指す）、その球はイン・プレーになることを定めている。従って、球がドロップされて落下中に、手に持っているクラブに当たれば、マッチ・プレーはそのホールの負（規則26条2ａ）、ストローク・プレーは２打付加される（規則26条3a）。球をドロップするとき手に持っている携帯品は、着用している衣服や靴のように身体の一部とは認められない。ドロップの方法は、球が肩越しに直接地上に落ちることを前提としているので、落下の途中で背、尻または踵などに当って球の落ちる速度や角度の変えられることを防止するために設けられたのが、規則22条2a後段に記されている「罰なしに再ドロップしなければならない」である。

KGA・競技レポート（7月～10月）

〔第３回関東ジュニア・ゴルフ選手権予選競技〕

△期　日　7月26日(月)～29日(木)
△コース　浮間ゴルフリンクス（5695㍍、パー71）
△参加者　高校男子 727名　女子　65名
　　中学男子 131名　総計 923名

参加申込数は949名、前年度の関東ジュニア選手権の倍以上にふくれ上ったため、各日ともに午前7時30分からと、午前11時30分からのスタートと２ブロックの予選をこなすという強行スケジュールとなったが、コースは河川敷のパブリック・コースとはいえ、コース・コンディションはフェアウエー、グリーンともに最高の状態に仕上っていたこともあり、連日好スコアでのせり合いが展開された。

第１日目の26日は男子中学生131名が7時30分からスタート、続いて11時30分より女子の部65名がスタートし、それぞれ18ホール・ストローク・プレーで予選を行なったが、降りしきる雨中の悪条件にかかわらず、男子中学の部では野上浩一(木崎中３年)が１オーバー・パー72ストロークの好スコアでトップとなり、以下18位タイまでの22人が決勝に進出を果たした。女子は中学生の久松由里子(上板橋一中２年)が並いる高校生を尻目に６オーバー77でトップ、以下90ストロークまでの13人が予選を通過した。

第２日目の27日からは男子高校生が３日間、午前と午後に分けて６ブロックの予選が行なわれたが、Ｃブロックの松下健(千葉日大一高３年)と、Ｆブロックの森岡繁幸(桐蔭学園１年)の２人がともに３アンダー・パー68ストロークの好スコアを出したのをはじめ、連日好スコアでのせり合いが展開され、80人が決勝進出を果たした。

なお、予選の会場となった浮間ゴルフリンクスは、８月２日の台風でまともにそのあおりを受けてコースが冠水し、再開までに相当の日時を要していたので、誠に気の毒だった。ただ、この台風が予選の開催期間中を避けてくれたことが幸運だったが、毎年、この予選には河川敷のコースを使用しているだけに、今後はこういう事態への対応も考えておかねばならないだろう。

〔第３回関東ジュニア・ゴルフ選手権決勝競技〕

△期　日　８月３日(火)
△コース　相模原ゴルフクラブ東コース（高校男子6083㍍　パー74　中学男子、女子　5523㍍　パー74）
△参加者　高校男子 89名　女子　14名
　　中学男子 23名　総計 126名

この日は台風の余波をうけて朝から激しい雨と風に見舞われた。コース内には台風のための倒木も多く、早朝にコースに到着した競技委員長は、レインウエアに身を固め、コースに飛び出してプレーが可能かどうかの判断と、特別ローカル・ルールの制定に走りまわった。

それにしてもこの決勝の開催日には余裕が無かった。スポニチ、高ゴ連との三者共催が決ってから、急に変更された日程であり、３日後の８月６日には霞ケ関カンツリー倶楽部で開かれる日本ジュニア選手権をひかえ、関東ジュニアはその地区予選をも兼ねていたからである。延期は不可能だった。結局、スタートを一時延ばして様子を見た後、36ホールを行なう予定だった高校男子の部も、18ホール・ストローク・プレーに変更し、横なぐりの風雨の中をスタートして行なった。傘などはほとんど役に立たないような風雨の中で、ジュニア選手は誰一人欠けることもなく、元気一杯のプレーを見せたが、大変だったのは運営を担当した競技委員たちである。相手がまだルールにくわしいとはいえぬジュニア選手たちであり、しかもこれだけの悪コンディションに見舞われては、プレー中の色々なトラブルが予想された。委員長をはじめ全員が携帯無線機を持ち、レインウエアに身を固めてコースのあちこちに散って行った。たまたま応援を兼ねて見に来た内藤正幸、岡田光正のハンディキャップ委員も委員長につかまり、臨時競技委員として刈り出された。思わぬなりゆきに目をパチクリさせながら、この２人も無線機を手に雨の中に飛び出して行く。スタートの立合いをしていた委員も、スタートが終り次第、競技運営に動員され、コース内には委員長、副委員長の他に12名の競技委員が配置され、万全の体制をとったのである。

こういった手配りもあったせいか、競技は風雨にかかわらず順調に進行した。もちろんこの悪コンディションにスコアをくずす者もいたが、上位者は意外な好スコアを続出させた。中でも高校男子の部では森田直樹（明星学園３年）が、４バーディー、４ボギーのイーブン・パーで迎えた最終の18番ホール(439㍍、パー５)で、第２打に４番アイアンを使用してピン横２㍍にピタリとつけ、このパットを決めて見事なイーグルをものにし、この長い相模原東を２アンダー・パー72ストロークでまとめ、２位の青山裕之(結城一高３年)に３ストロークの差をつけて初優勝をものにしたのは鮮かだった。

中学男子の部は佐藤英明(伊藤中２年)と萩原善雄（文京10中３年）の２人が２オーバー・パー74ストロークのタイ・スコアでトップに並び、雨の中を再度プレー・オフのために飛び出していった。そして接戦の末、佐藤が初優勝を獲得した。

女子は久松由里子(上板橋一中２年)が予選トップ通過の余勢をかって、優勝候補の前年覇者谷弘恵（日大桜丘高２年）に２ストローク差をつけ、６オーバー・パー80ストロークでこれも初優勝をとげた。

とにかくジュニアはどの部門でも逸材が飛び出して来ており、今後の成長が大いに期待できそうな大会だった。

第３回関東ジュニア・ゴルフ選手権決勝競技成績表（昭和57年度）

高校男子の部

氏名	学校名	アウト	イン	計	順位
森田直樹	〈明星学園高3〉	37	35	72	優勝
青山裕之	〈結城第一高3〉	36	39	75	2
小沼年則	〈土浦日大高3〉	39	38	77	3
芹沢大介	〈日大高3〉	39	38	77	3
古木真二	〈向上高2〉	38	39	77	3
（以上入賞）					
合田洋	〈千葉日大第一高3〉	39	39	78	
松下健	〈千葉日大第一高3〉	40	38	78	
鹿島田明宏	〈明大附属中野高2〉	38	41	79	
米山剛	〈相洋高3〉	37	42	79	
川田竜也	〈土浦第三高3〉	39	41	80	
木村義太郎	〈横浜商科大附属高3〉	41	39	80	
土岐宏	〈三浦高3〉	38	42	80	
中村宏行	〈浦和実業高3〉	40	40	80	
和田浩司	〈日大高3〉	38	42	80	
宝田一義	〈明大附属中野高2〉	42	39	81	
増田健	〈日大高2〉	41	40	81	
内田重典	〈駒場学園高2〉	38	44	82	
瀬畑宏治	〈明野高2〉	42	40	82	
田沼健一	〈日大高2〉	42	40	82	
浜田正高	〈埼玉栄高2〉	41	41	82	
斉藤義勝	〈大森高3〉	41	42	83	
根本和幸	〈土浦日大高3〉	42	41	83	
長谷川太郎	〈浦和学院高1〉	43	40	83	
秦智彦	〈明大附属中野高1〉	40	43	83	
塙秀幸	〈昭越高2〉	40	43	83	
安田浩二	〈成城学園高1〉	41	42	83	
一瀬篤	〈伊東商高3〉	41	43	84	
小松徹	〈日大高2〉	42	42	84	
常岡慶太	〈芝浦工大高3〉	42	42	84	
郷切茂友	〈春日部高3〉	42	42	84	
山田一人	〈明大附属中野高2〉	40	44	84	

中学男子の部

氏名	学校名	アウト	イン	計	順位
佐藤英明	〈伊藤中2〉	38	38	76	優勝
萩原善雄	〈文京区立第10中3〉	37	39	76	2
伊沢利光	〈大船中3〉	38	39	77	3
小西政臣	〈原市中3〉	39	38	77	3
杉山直也	〈成蹊中3〉	37	40	77	3
（以上入賞）					
梅村孝之	〈浜須賀中3〉	38	40	78	
岡田光史	〈江東中3〉	41	39	80	
津田徹哉	〈十日市場中3〉	38	43	81	
野上浩一	〈木崎中3〉	41	40	81	
飯塚信太郎	〈国府津中3〉	41	42	83	
西川哲	〈赤坂中2〉	40	43	83	
秋元英樹	〈千葉日大第一中2〉	42	42	84	
小達敏昭	〈関東学院中3〉	43	41	84	
木戸孝	〈双玉社中3〉	42	42	84	
小嶋智明	〈府中第五中3〉	41	44	85	

女子の部

氏名	学校名	アウト	イン	計	順位
久松田里子	〈上板橋第一中2〉	41	39	80	優勝
谷弘恵	〈日大桜丘高2〉	40	42	82	2
吉村雅江	〈川崎北高3〉	40	45	85	3
（以上入賞）					
喜多麻子	〈聖和学院高1〉	42	44	86	
柳澤田佳子	〈慶應女子高3〉	41	46	87	
関亦美佐子	〈小松原女子高2〉	45	44	89	
加藤知子	〈川崎高2〉	44	46	90	
安田朱里	〈松原高3〉	42	48	90	
伊藤朝代	〈外苑中3〉	49	42	91	
前田美礼	〈成城学園高3〉	44	48	92	
望月佳代	〈文化女子大付属杉並高3〉	47	48	95	
金城多恵子	〈駒沢学園高1〉	46	51	97	
村上園子	〈南中3〉	50	50	100	
柴田光子	〈青山学院高2〉	53	55	108	

昭和57年度夏季ジュニア初心者ゴルフ教室

△期　日　昭和57年8月25日(水)
△場　所　ノーザンカントリークラブ錦ヶ原ゴルフ場
△参加者　男子ジュニア40名　女子ジュニア7名

関東ゴルフ連盟ジュニア委員会は昨年末の冬休みと、三月末の春休みを利用して2泊3日のジュニア教室を開催したが、これらのゴルフ教室はいずれもラウンド・レッスンを主体とした教室だったため、中級者から上級者を対象としており、ゴルフを全然やったことのない初心者の参加は、プレーの進行を阻害するだけなのでお断りせざるを得なかった。

これらの人たちには「いずれ改めて初心者教室を開く」ことでご辞退願っていたことから、この夏季初心者教室の開催が企画されたものだ。

しかし、反響は意外と少なかった。各日40名ずつ、3日間で120名のレッスンを予定していたが、申込み者は男子ジュニアが40名、女子が7名に過ぎず、3日開催を1日だけで打切り、8月25日に錦ケ原ゴルフ場で教室を開いた。

講師は日大出身の西田升平プロ、これに松野委員長をはじめとしてジュニア委員の渡辺武信、新井安寿、石原寿、上代修二、中野弘治、大鷲俊朗、田辺嘉一の諸氏に、月例参加のトップ・アマチュアから大竹徹、森茂則、岡野幸男、岡田光正、杉田成豊氏などがボランティアとして指導員を引受けてくれた。そして西田升平プロの理路整然としたレッスンが午前中一杯続けられ、4人に1人の割合で着いた指導員が、うだるような暑さの中を、日蔭も皆無の練習場で熱心な指導に当った。

昼からは9ホールのラウンド・レッスンを行なったが、ラウンドのマナー、エチケットを教えることに重点は置いてあっても、何しろコースに出るのが初めてのジュニアもおり、一組に一人ずつ着いた指導員は、ボール探しから球の打ち方、スコアの着け方まで教えなければならず、どの指導員も大汗をかいて走りまわる有様だった。

しかし、ジュニアはさすがに体も柔らかく、教えられたことに対する飲み込みも良く、中には指導員を驚かすほどのナイス・ショットを打つ者も出て来て、関係者を喜こばせた。この夏季ジュニア初心者教室の参加費用はテキスト、及び昼食代、練習料金、ラウンド・フィーまで含めて4500円と安かったことが大変に喜こばれていたが、これはノーザン錦ヶ原の絶大なるご協力があり、かつまたほんの車馬賃だけで参加してくれた西田プロ、及びトップ・アマチュア選手たちの無料奉仕があったればこそであり、これらのクラブや人々に対して深く感謝しなければならない。

一日をフルにレッスンで鍛えられたジュニア選手たちが、「この次のゴルフ教室は、いつ開くんですか……」と早くも次の教室開催を期待して口々に聞いていたのが印象的だった。

'82関東オープンつれづれ

関東ゴルフ連盟
競技委員長　福　田　　彰

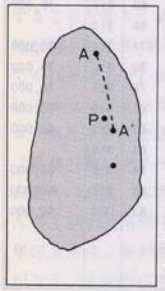
'82関東オープンは近来希な話題の多い競技でありました。又その意味でもある程度の成功を収められましたことは運営責任者の一人として大変うれしく思います。

話題を拾ってみますと

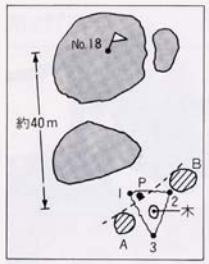
1．スコアーが伸びず、優勝が2オーバーであったこと
2．小林プロの罰打問題
3．尾崎プロが1年9ヶ月ぶりの優勝

1）についてはラフが長い等の話題がありましたが私は必ずしもそうではないと思います。8月下旬の長雨のためフェアウェイの刈り込みが十分でなかったことが大きな原因の一つだと思います。ただでさえ野芝のためドロップし易いものが刈り込み不足のためその現象が倍加したのでしょう。従ってラフからのショットとの差がそれ程大きくなかったかと思われます。従ってコース側でも毎日フェアウェイの刈り込みを行い、装備に努めて下さいました。又、富士山麗特有のグリーンの傾斜の錯覚も大きな原因でしょう。バーデー・パットを2～3回失敗することで益々判らなくなったと言うのが実体でしょう。コースそのものはそれ程長くなく、ショートホールがやや難物ですが、その他、9、11、18番以外はショートアイアン又はせいぜいミドルアイアンで十分の筈です。

2）小林プロの罰打の件は難しい問題で、どう判定してよいのか、委員会でも1時間以上論議し小林プロは勿論、マーカーの長谷川プロにも来てもらって実況を確認した上での判定です。小林プロが16番グリーンでAの球の第1パットを行ない、A′の球をマークしようとして胸の銀貨が落ち自分の球にあたり之が動いたものです。之をもとの位置にリプレースしてホールアウトするわけですが、この時長谷川プロの球Bはマークし、リプレースの状況にありました。Aの球に対し、第35条3項aにするか、第27条1項dを適用するか、又第35条の解釈についてもいろいろ議論もありましたが、同伴競技者の要求があってはじめてこの救済が得られると解釈し、厳しく判定した次第です。何れにしても競技委員会の判定が最終であるということでご了承願いたいと存じます。尚第35条の解釈についてもっと判り易く表現されるようルール委員会にお願いしたいと思います。



3）尾崎プロの優勝はゴルフ界のためにも大変喜ばしいことだと思います。之を見て私は彼が長く優勝出来なかった要因は技術的な面でなく、80%以上精神面だと確信いたします。大変良く整備された良いグリーンで絶妙なフィーリングのパット、日本プロ界一、二のロン



グドライブが十分発揮出来たのも精神面の安定でしょう。即ちこのコースではそれ程大きなアンダーパーが出ないと云うこと。又彼にとって、パーを拾うことはどのホールでもそれ程難しくないという気持の余裕がすべてのショットに良いタイミングを得られた原因であると思います。従来はアンダーパーでなければ優勝出来ないと言う気持のあせりが、スコアーをこわす遠因であったかと思います。今後10～12アンダーパー以上のスコアーで彼が優勝した時、　再び尾崎時代が来るのではないでしょうか。彼が18番ホールセカンドで大きく左に曲げ支柱の間に入った問題は図のようになります。中には向って右側にドロップすべきだと言う人もありましたが、之は間違いで支柱1、2、3を避けスイング出来る地帯は、A及びBになりますが、球の位置Pからは左側のA地帯の方が近く、ここにドロップすべきです。ここも15cm以上の深いラフでしたが踏まれて全体に芝がねていたことは大変好運だったと思います。優勝する時はこういうことがあるものです。その他各日のベストコアの中で3日目風の強い日にプロのスコアが伸びず、アマチュア2名東君と栗原君がベストスコア5名の中に入ったことも一つの話題でしょう。

'82関東オープン成績及び賞金支払明細報告書

1 トーナメント名称	関東オープンゴルフ選手権競技
2 開催期日	9月2日～9月5日
3 競技会場	富士小山ゴルフクラブ(m及びパー)6,358m：パー72
4 賞金総額	￥20,000,000（但し、下記順位による賞金総額）

	氏名	所属	1R	2R	3R	4R	計	賞金額
1	尾崎将司	日東興業	73	72	73	72	290	4,000,000
2	羽川豊	霞ヶ関	74	71	77	69	291	2,000,000
3	磯崎功	都留	74	72	73	75	294	1,350,000
3	小林富士夫	真名	75	69	74	76	294	1,350,000
5	菊地勝司	フリー	72	70	77	76	295	775,000
5	杉本英世	千成	72	71	77	75	295	775,000
5	中島常幸	美津濃	75	69	76	75	295	775,000
5	吉武恵治	程ヶ谷	73	75	77	70	295	775,000
9	矢部昭	アリガゴルフ	76	75	73	72	296	500,000
10	鷹巣南雄	鹿野山	73	77	75	72	297	353,333
10	長谷川勝治	船橋	77	71	74	75	297	353,333
10	安田春雄	カシオ	73	78	77	69	297	353,334
13	河野高明	矢板	76	73	76	73	298	330,000
13	横島由一	JUN	73	76	77	72	298	330,000
15	謝敏男	鳳凰	73	74	75	77	299	283,333
15	藤木三郎	後楽園スタジアム	75	75	74	75	299	283,333
15	村上隆	殖産住宅	73	78	74	74	299	283,334
18	小川清二	東千葉	75	72	77	76	300	236,000
18	栗原孝	武蔵	76	75	74	75	300	236,000
18	中川泰一	三島ゴルフコース	73	74	75	78	300	236,000
18	野口茂	浜松豊岡国際	74	75	77	74	300	236,000
18	森憲二	川崎国際	78	69	80	73	300	236,000
23	草壁政治	紫	79	73	74	75	301	200,000
23	佐野修一	東松山	76	74	79	72	301	200,000
23	富永浩	嵐山	76	77	73	75	301	
26	榎本七郎	大泰野	76	76	76	74	302	160,000
26	海老原清治	フリー	74	75	76	77	302	160,000
26	金井清一	ダイワ精工	73	72	85	72	302	160,000
26	中村稔	南箱根	79	75	74	74	302	160,000
26	東聡	日大	79	75	73	75	302	
26	藤間達雄	沼津	76	72	74	80	302	160,000
32	尾崎直道	日東興業	76	74	79	74	303	135,000
32	金海成雄	海栄海運	75	72	81	75	303	135,000
34	市川幹雄	大泉パーディ	74	77	76	77	304	120,000
34	加藤一彦	千葉	77	74	76	77	304	
34	熊部稔	よみうりGC	77	73	77	77	304	120,000
34	白浜郁夫	青梅RS	74	74	80	76	304	120,000
34	杉谷博美	御殿場センター	79	74	76	75	304	120,000
39	新井規矩雄	アデランス	74	73	85	73	305	100,000
39	井岡誠	鷹之台	78	74	77	76	305	100,000
39	竹中博	嵐山	77	76	75	77	305	100,000
42	青木基正	フリー	73	73	80	80	306	95,000
42	片山康	そごう百貨店	80	73	77	76	306	95,000
42	川田時志春	川越	76	75	83	72	306	95,000
42	渡辺章太郎	セントラル	74	73	83	76	306	95,000
46	高橋五月	栃木	80	72	77	78	307	90,000
46	村田忠男	伊香保国際	76	75	81	75	307	90,000
48	池ノ谷信行	桐生	77	74	78	79	308	90,000
48	田中泰二郎	下野	77	74	75	82	308	
48	頼賀靖生	扶桑	76	77	75	80	308	
51	栗原徹	フリー	79	75	79	76	309	80,000
51	外岡忍	菊川	80	74	80	75	309	80,000
51	中山徹	長太郎	77	77	77	78	309	80,000
51	船渡川育宏	南部富士	76	75	79	79	309	80,000
55	森口康一	芳賀	76	78	82	74	310	80,000
56	岡本政喜	木更津	75	78	81	77	311	70,000
56	川波通幸	都賀	75	75	81	80	311	70,000
56	嶋田憲人	青梅	73	77	77	84	311	
56	城村克身	古賀志	77	76	84	74	311	70,000
56	鳥沢利和	大熱海国際	75	78	78	80	311	70,000
56	野口長二	大利根	78	75	79	79	311	70,000
62	金子光雄	金子PS	77	75	80	81	313	60,000
62	佐野貞次	フリー	80	74	76	83	313	60,000
64	内山健司	青梅	79	75	79	81	314	
65	陳健忠	トヨストーブ	81	72	78	84	315	60,000
66	須藤聡明	新水戸	78	72	84	83	317	60,000
67	加藤武男	長者町センター	81	72	88	83	324	60,000

関東オープンを終わって

富士小山ゴルフクラブ
支配人　栗原　毅

秋風が肌に心地よい季節になり、関東オープンも無事終了してほっとしているところです。

思えばこの2年間は長いようで短い2年間でした。安藤理事長から「関東オープンを、我がクラブで引受けようと思うがどうかね？」と言われたのが、56年9月、支配人として赴任して1年余りの時でした。ようやくコース全体の状況を把握し、その弱点をこれからどうやって直して行こうかと考え始めた矢先のことでした。私は、これは大変なことになったと考えると同時に、内心しめたと思いました。ようし関東オープンを錦の御旗に、コース改造を2年間でやってしまおうと決心しました。こうして関東オープンの準備が始ったのです。関東オープン準備本部を組織して、武田専務が本部長として陣頭指揮することとなり、武田専務の「金のことは心配するな、私が何とかする。君は副本部長として、コースを立派にしてくれればよい」との言葉でフェアウェイ20mm、グリーン4mmカットという厳しい関東オープン仕様に堪え得るコース作りに、まさに2年間没頭したのです。

排水の悪いグリーン10面の改造、フェアウェイ排水不良個所の改良、水害防止のための防災工事というたくさんの工事を短期間にやるのですから大変でした。昭和56年の5月は、春が寒く、芝の芽立ちが遅く、その上降雨がなく、全国的にコースコンディションは悪かったのですが、我がコースはそれこそ、惨憺たる有様で、心配して見にこられた、故吉川金重委員長、矢野事務局長がフェアウェイそこかしこにあるベアグランドを見て、ひどく暗い表情になられたのを今でも覚えています。そして8月18日、第1回の準備委員会が、クラブの会議室で開かれ、グリーンとティーインググランドは、ほぼ合格点をもらいましたが、フェアウェイについては、はたして来年までに十分回復するのかどうかと、深刻な議論が展開されました。結論は、松野副委員長の「我々に恥をかかせないよう、とにかく頑張ってくれ」との一言でした。

私には自信がありました。フェアウェイ回復には、春秋の大目土という伝家の宝刀があったからです。メンバーに3週間ほど、プレーしにくいのを我慢していただくという難点はありますが、これほど効果のあるものはないからです。武田専務に相談して、秋、冬、春と3回、大目土を実施したところ、フェアウェイはみるみる回復し、57年の8月上旬にはとうとう20mmにカットできるところまで、コンディションがよくなったのです。

水害防止の防災工事も完璧で、8月2日の台風10号では、600mmの大雨が降りましたが、コースは、びくともしませんでした。そしてあっという間に競技当日を迎え、今度は台風15号の動静に、毎日不安な日々を送ることになりました。大会第3日は、台風の余波で強風が吹き荒れ、翌日本土を直撃するという予報が出されたことと相まって、9月4日は本当に眠れぬ夜となりました。しかし誰の執念か、突如、15号は大スライスをし、はるか東海海上に去ったのでした。

最終日は快晴微風の絶好のゴルフ日和、逃げる尾崎を若手の羽川が追いかけるという素晴らしい、展開となり、1年9ヶ月ぶりのジャンボの優勝と、青木の欠場を埋める話題性の高い大会となりました。今、KGA最大の行事である関東オープンの裏方の重荷から開放されて、しみじみ幸せを味わっているところです。

関東オープンのおかげで、コースも素晴らしくなったし、そしてKGAの矢野さん、加藤さん、ダンロップの戸張、石川、中根の三君など好い友達をたくさん得ることができました。また何かの時に一緒に仕事をしたいなと思います。最後に、未熟な私を、色々親切にご指導いただいた、福田委員長、松野副委員長、渡辺委員の各氏にお礼を申しあげて筆をおきます。

第29回関東シニア・ゴルフ選手権競技

▲期　日　9月28日(火)～29日(水)
▲コース　鷹之台カンツリー倶楽部(5749ヤード,パー72)
▲参加者　234名

ことしの関東シニア選手権で、まず度胆を抜かれたのが参加者の急増である。昨年度のシニア選手権の参加者が185名、それから考えてやや参加者が増加したとしても200名ぐらいになれば良いところ……というのが競技委員会はじめ関係者の予想だった。ところが申込みはどんどん増えて軽く200名を突破、最終的には234名、昨年度より50名の急増である。

これには競技委員会も驚いたが、開催クラブの鷹之台カンツリー倶楽部の方がなお一層びっくりさせられたに違いない。とにかく18ホールのコースに234名を入れるだけでも大変なところに、公式競技なのでプレーが慎重になるばかりでなく、出ている選手がいずれも満60才以上のシニアである。長い人生の波濤を乗り越し、今やゆうゆう自適の余生を楽しんでいる方が多い。つまりはプレーの方もゆうゆうとして遅い人が多いのではないか…と心配されたからである。

とにかくこの234名の選手を順調にラウンドさせ、2日間の大会を無事終了させることが河西幹一競技委員長にとって最大の課題となった。河西委員長が最初にやったことは、午前に1ラウンド済ませる組と、午後にラウンドする組に分けたことである。それも午前の組は午前7時からスタートさせ、午後の組は午前11時からスタートさせることにした。こうした組合せで午後の最終組のスタートが午後0時30分、これだと1ラウンド4時間30分かかるとしても、順調ならば午後5時にプレーを終了出来る計算である。これにスタートの遅れ、プレーの遅れを出来る限りおさえれば、なんとか日没までには競技を終らせることが出来る……と見たのである。

この計画のもとに競技委員長はクラブ側と綿密な打合せをもった。クラブ側が一番頭を悩ませたのは、234名をまかなうキャディーをどうするかだった。結局、午前のラウンドに着いたキャディーを、上り次第、午後のラウンドに振り向けることとした。しかし、それでも午前のトップの組が18ホールをホールアウトする前に、午後のスタートが開始されてしまう。その間をどう埋めるか

優勝杯を手にした宮富保(川崎国際)

がいろいろ検討され、近隣クラブにキャディーの応援を依頼するか、学連のアルバイト・キャディーを動員するか等の案が出されたが、その午前と午後のラウンドのダブル時間だけをコース課員から補充し、逐次正規のキャディーに交替する方法がとられた。

実際のプレーでもこのキャディーの連携は実にスムーズに行なわれて、何の支障も起さなかったが、昼食もろくすっぽ食べないうちに、次のラウンドに狩り出されたキャディーさんたちには、実に気の毒なことをした。

河西競技委員長が次に打った手は、競技委員を動員することだった。鷹之台からは香取喜秋委員長以下17名の競技委員が出席してくれたが、連盟の方でも事情を説明して出来るだけ多数の競技委員が出席するように呼びかけ、各日17名ずつの委員を確保した。

そして競技当日は午前7時からのスタートにそなえて午前6時半から全員揃って競技委員会を開催、その日その日の役割分担を決めるとともに、競技運営をスムーズにするための綿密な打合せを行ない、スタートとともに本部要員を除く競技委員は、連盟の備品となった新鋭の無線機と、プレー進行時間表とを手にコースのあちこちに飛び出して行った。

運営担当の競技委員は2ホールに1人の割合いで配置され、それもまる1日その場所にハリ付けとなるのだから大変だった。

「アウト何組目はただ今、何番ホールをホールアウト、次のティーに向いました。時間表より5分早めです」、「インの何組目は、ただ今何番ホールを終了、5分遅れ」等々。

次から次と委員から無線で送られて来る進行状況は予想外に順調で、緊張気味で日没サスペンデッドの手配まで準備していた河西委員長の顔にも、やっと安堵の色が浮かんだ。

天候に恵まれたこともあり、かつまた鷹之台のコースがトラブルの少い流れの良いコースだったことも幸いしたのだと思うが、2日間ともに順調なプレーで無事終了することができたのは、まず第一に一日中各ホールに張付けられ、プレーの督励につとめて来た競技委員のご苦労と、クラブ側の万全の準備が功を奏したものといえよう。

競技の方は第一日目の午前の部では、インの第1組からスタートした小宮山光正（竜ヶ崎）が快調に飛ばして3オーバー・パー75でトップを奪ったが、午後の部に入ると、同じくインのトップでスタートした中村正信（我孫子）が1オーバーの73、しかしすぐその後からパットが快調な宮富保（川崎国際）がイーブン・パーの72にまとめて1日目のリードを奪った。

2日目も絶好のコンディションに恵まれて激烈な優勝争いが期待されたが、前日2位の中村、3位の小宮山ともに調子を乱してスコアをくずし、宮富の独走模様となった。

アウトでは2番と7番をバーディーでまとめて2アンダー・パーの34、この時点で完全に2位以下を大きく引離した。インに入っても一向に衰えを見せなかったが、長いショート・ホールの15番でこの日初のボギー、続いて17番でも惜しいボギーをたたいて通算をイーブン・パーに戻してしまった。しかし、最終ホールの18番446にのロング・ホール、3オンして数メートルのバーディーパットを見事に決め、ついに通算1アンダー・パー143ストロークで見事な初優勝を飾った。とにかくアンダー・パーの優勝は、関東シニア選手権始まって以来初めての快挙だった。

2位には前年度チャンピオンの山口梅吉（横浜）が前日の4位から追い込んで151ストロークで入ったが、トップとの差は8ストロークと開いていた。

なお、この大会ではかつて日本で活躍していた岡藤武夫（武蔵）がハワイから参加して昔の仲間と旧交を暖めている姿などが目を引いた。

とにかく234名のこの大会はなんとか無事終了することが出来たが、このままでは明年の関東シニアの参加者はまだまだ増えることが予想され、予選制をとるか、出場資格のハンディキャップでしぼるか、どちらかの手を打たない限りプレー不能の事態が起るだろう。

この点が関東シニアの今後の問題点である。

昭和57年度関東シニア・ゴルフ選手権競技成績表

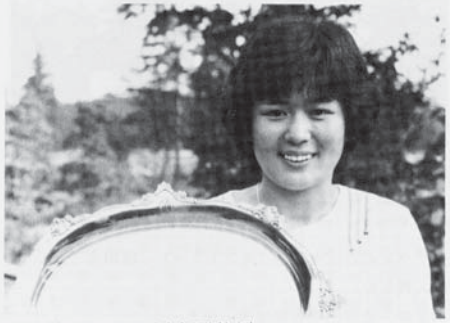
於：鷹之台カンツリー倶楽部　9月28日～29日　参加者 225名

順位	氏名（クラブ）	第1ラウンド 第2ラウンド アウト・イン・計	合計	順位	氏名（クラブ）	第1ラウンド 第2ラウンド アウト・イン・計	合計	順位	氏名（クラブ）	第1ラウンド 第2ラウンド アウト・イン・計	合計	順位	氏名（クラブ）	第1ラウンド 第2ラウンド アウト・イン・計	合計
1	宮富保（川崎国際）	35 37 72 34 37 71	143	14	河口田治（武蔵）	38 40 78 38 41 79	157	23	黒崎真平（大利根）	39 41 80 42 38 80	160	36	出虔泰造（成田ハイツリー）	39 40 79 38 44 82	161
2	山口梅吉（横浜）	38 38 76 36 39 75	151	14	神林鍾（我孫子）	43 37 80 40 37 77	157	23	古口交志（ダイヤクリーン）	40 43 83 37 40 77	160	36	菅野武（日光）	40 40 80 39 42 81	161
3	佐藤進（中山）	38 40 78 36 39 75	153	16	池永弘（戸塚）	40 39 79 42 37 79	158	23	田中実（鉄子）	40 42 82 39 39 78	160	36	遠山光陽（相武）	40 40 80 41 40 81	161
3	角田健吉（戸塚）	39 37 76 38 39 77	153	16	塩沢鶴雄（鷹之台）	41 37 78 39 41 80	158	23	萩原貞（千葉）	40 39 79 43 38 81	160	36	毛利好（岡部チサン）	41 40 81 38 42 80	161
5	押谷七兵衛（袖ヶ浦）	36 40 76 39 40 79	155	16	目崎隆司（我孫子）	39 38 77 39 42 81	158	23	前田糧一郎（我孫子）	40 40 80 41 39 80	160	36	本橋久雄（竜ヶ崎）	41 42 83 37 41 78	161
5	小宮山光正（竜ヶ崎）	36 39 75 42 38 80	155	19	新井康之（立川国際）	37 41 78 40 41 81	159	23	松岡晴人（嵐山）	43 39 82 38 40 78	160	36	吉島清（土浦）	40 39 79 40 42 82	161
5	中村正信（我孫子）	39 34 73 41 41 82	155	19	大向不二男（横浜）	41 39 80 39 40 79	159	23	松田禎之（本厚木）	36 43 79 43 38 81	160	36	鞆俊文（小金井）	42 38 80 41 40 81	161
8	間宮絶晶（本厚木）	40 39 79 35 42 77	156	19	浜野賢（レインボー）	43 39 82 38 39 77	159	23	宮田卓之（船橋）	39 40 79 41 40 81	160	47	大澤武次（越生）	43 38 81 40 41 81	162
8	大塚成吉（中山）	40 40 80 36 40 76	156	19	福田彰（我孫子）	38 39 77 40 42 82	159	23	篭瀬庫治（GMG八王子）	40 41 81 40 39 79	160	47	小野逸世（東京国際）	44 38 82 39 41 80	162
8	栗原幸彦（水戸）	41 39 80 37 39 76	156	23	浅井時郎（狭山）	38 40 78 40 42 82	160	36	明石純一（唐沢）	40 41 81 42 38 80	161	47	相村敏生（袖ヶ浦）	41 38 79 41 42 83	162
8	佐野節之輔（鳥山城）	40 39 79 39 38 77	156	23	井上朗（鉄ヶ崎）	41 41 82 39 39 78	160	36	岡安功（鷹之台）	38 41 79 42 40 82	161	47	川津保（嵐山）	39 41 80 40 42 82	162
8	平本正美（津久井湖）	38 39 77 39 40 79	156	23	江原伸治（ダイヤクリーン）	40 39 79 40 41 81	160	36	木場卓輝（我孫子）	39 39 78 43 40 83	161	47	清水武男（水戸）	40 41 81 41 40 81	162
8	矢野正親（鳥山城）	36 41 77 40 39 79	156	23	倉野四郎（大利根）	42 37 79 41 40 81	160	36	黒石義忠（我孫子）	38 38 76 41 44 85	161	47	西脇喜太郎（袖ヶ浦）	40 41 81 41 40 81	162

順位	氏名 (クラブ)	第1ラウンド	第2ラウンド	アウト・イン・計	合計
47	高橋忠国 (日高)	39	43	82	162
		39	41	80	
47	田村三作 (鳥山城)	39	42	81	162
		40	41	81	
47	山中正市 (相模)	43	39	82	162
		40	40	80	
56	枝廣幹造 (鎌ヶ谷)	39	38	77	163
		42	44	86	
56	大場角次郎 (東京)	41	41	82	163
		40	41	81	
56	荻津邦 (水戸)	43	41	84	163
		41	38	79	
56	新保衛助 (藤ヶ谷)	40	38	78	163
		42	43	85	
56	服部真吾 (沼津)	42	40	82	163
		43	38	81	
56	福山琢磨 (総武)	38	41	79	163
		43	41	84	
56	滝辺憲己 (鷹之台)	38	41	79	163
		41	43	84	
63	伊藤大造 (甘楽)	42	42	84	164
		39	41	80	
63	岡藤武夫 (武蔵)	41	40	81	164
		41	42	83	
63	北澤一郎 (東京国際)	38	43	81	164
		40	43	83	
63	柳引大吉 (狭山)	42	43	85	164
		38	41	79	
63	小倉仁郎 (袖ヶ浦)	38	45	83	164
		41	40	81	
63	重岡伸矩 (相模原)	39	42	81	164
		44	39	83	
63	長島衆 (一柴)	41	44	85	164
		41	38	79	
63	平野善次郎 (我孫子)	41	39	80	164
		44	40	84	
63	町秀夫 (鳥山城)	44	40	84	164
		39	41	80	
63	山口栄寿 (唐沢)	42	40	82	164
		41	41	82	
73	井上剛啓 (東京国際)	36	41	77	165
		47	41	88	
73	榎本通 (習志野)	44	38	82	165
		40	43	83	
73	首藤利夫 (武蔵)	44	36	80	165
		43	42	85	
73	真貝一郎 (千葉国際)	43	40	83	165
		43	42	82	
73	原田敏一 (高根)	38	40	78	165
		42	45	87	
73	堀越善雄 (保ヶ谷)	39	43	83	165
		41	41	82	
73	宗光厚 (水戸)	41	40	81	165
		43	41	84	
80	岩橋亨 (相模)	42	41	83	166
		41	42	83	
80	榎本政陸 (中津川)	40	42	82	166
		46	38	84	
80	笠川猛 (千葉)	42	41	83	166
		43	40	83	
80	隅田真吾 (相模)	40	41	81	166
		43	42	85	
80	高瀬寿八 (東京)	44	41	85	166
		40	41	81	
85	大内田栄馬 (常陽)	41	42	83	167
		44	42	86	
85	佐藤康夫 (横浜)	45	41	86	167
		41	40	81	
85	福田国三 (浜松シーサイド)	40	42	82	167
		40	45	85	
85	三浦茂樹 (横浜)	39	40	79	167
		45	43	88	
89	大野都蔵 (唐沢)	44	42	86	168
		42	40	82	
89	梶原健義 (我孫子)	40	43	83	168
		44	41	85	
89	河原克次 (茨城)	40	41	81	168
		43	44	87	
89	後藤相介 (我孫子)	41	45	86	168
		39	43	82	
89	坂本平一郎 (武蔵)	44	43	87	168
		39	42	81	
89	篠原喜和治 (武蔵)	43	45	88	168
		38	42	80	
89	田口和男 (旧軽井沢)	41	42	83	168
		45	40	85	
89	千野七郎 (嵐山)	40	41	81	168
		42	45	87	
89	戸張栄一 (武蔵)	41	40	81	168
		44	43	87	
89	中村敬 (袖ヶ浦)	41	40	81	168
		45	42	87	
99	上津原時雄 (ソーサン・鎌ヶ谷)	43	40	83	169
		43	43	86	
99	柏谷宇吉 (川崎国際)	39	45	84	169
		43	42	85	
99	河内石太郎 (武蔵)	44	41	85	169
		42	42	84	
99	古泉三男 (青梅)	43	40	83	169
		43	43	86	
99	重富清一 (袖ヶ浦)	40	43	83	169
		44	42	86	
99	都所鐐也 (横浜)	40	44	84	169
		42	43	85	
99	牧山恭輔 (袖ヶ浦)	45	43	88	169
		40	41	81	
99	滝辺武信 (湯河原)	46	42	88	169
		41	40	81	
107	青木正策 (藤ヶ谷)	44	41	85	170
		43	42	85	
107	石田忠男 (東名富士)	43	42	85	170
		45	40	85	
107	伊藤哲治 (鷹之台)	40	42	82	170
		42	46	88	
107	岡田操 (亀ヶ崎)	42	42	84	170
		43	43	86	
107	湖上昇 (府中)	45	39	84	170
		43	43	86	
107	白倉久 (甲府国際)	42	43	85	170
		41	44	85	
107	菅沼計二 (鶴舞)	42	41	83	170
		43	44	87	
107	田川次郎 (鷹之台)	39	43	82	170
		44	44	88	
107	塚田展夫 (鶴舞)	40	42	82	170
		45	43	88	
107	平田栄次郎 (天城にっかつ)	43	43	86	170
		41	43	84	
117	高波瀬乙松 (多摩)	44	43	87	171
		39	45	84	
117	駒場雅 (日光)	41	44	85	171
		44	42	86	
117	武石小二郎 (船橋)	44	46	90	171
		42	39	81	
117	南郷茂宏 (湯河原)	44	38	82	171
		46	43	89	
117	平善男 (我孫子)	43	44	87	171
		42	42	84	
117	松本真次 (東京)	43	41	84	171
		41	46	87	
123	今井良次 (土浦)	42	43	85	172
		43	44	87	
123	下村重雄 (袖ヶ浦)	44	43	87	172
		43	42	85	
123	鈴木義平 (船橋)	41	46	87	172
		43	42	85	
123	鈴木兵吉 (千葉)	44	42	86	172
		43	43	86	
123	中村善之助 (一柴)	43	45	88	172
		40	44	84	
123	新里武男 (セントラル)	41	42	83	172
		45	44	89	
123	二宮五郎 (我孫子)	42	44	86	172
		41	45	86	
123	林清次郎 (大利根)	47	42	89	172
		40	43	83	
123	藤田清治 (鳥山城)	43	47	90	172
		41	41	82	
123	増田定次 (鷹之台)	46	46	92	172
		40	40	80	
123	増田徳三 (嵐山)	44	42	86	172
		42	44	86	
123	真鍋公夫 (狭山)	42	42	84	172
		43	45	88	
123	柳川資郎 (銚子)	42	42	84	172
		46	42	88	
123	頼富竜太郎 (我孫子)	43	44	87	172
		45	40	85	
137	黒川及武夫 (相模)	39	46	85	173
		43	45	88	
137	古茶一之 (大利根)	45	41	86	173
		41	46	87	
137	中川健介 (川崎国際)	42	42	84	173
		43	46	89	
140	小幡勉 (習志野)	42	42	84	174
		44	48	92	
140	川本須恵男 (大利根)	44	44	88	174
		43	43	86	
140	小泉庄二 (沼津)	41	44	85	174
		47	42	89	
140	白井一夫 (袖ヶ浦)	45	41	86	174
		45	43	88	
140	田中一美 (総武)	46	41	87	174
		44	43	87	
140	西川為大郎 (千葉国際)	44	45	89	174
		40	45	85	
140	星大四郎 (湯河原)	43	42	85	174
		44	45	89	
140	堀哲 (船橋)	43	43	86	174
		45	43	88	
140	増山真佐四郎 (鳥山城)	47	42	89	174
		43	42	85	
140	三輪善兵衛 (桜ヶ谷)	43	43	86	174
		42	46	88	
150	市瀬輝男 (天城にっかつ)	43	40	83	175
		46	46	92	
150	桑田中軌 (横浜)	44	43	87	175
		42	46	88	
150	小林行治 (相模)	46	43	89	175
		41	45	86	
150	佐武太市 (五日市)	41	42	83	175
		45	47	92	
150	白石宗一 (東京)	43	43	86	175
		45	44	89	
150	高杉音吉 (千葉)	44	42	86	175
		42	47	89	
150	武内俊三 (武蔵)	46	47	93	175
		38	44	82	
150	徳田博士 (愛蘭600)	42	41	83	175
		47	45	92	
150	中島寿雄 (小田原湯本)	44	42	86	175
		45	44	89	
150	別当薫 (箱根)	46	42	88	175
		43	44	87	
150	三木正美 (GMG八王子)	44	40	84	175
		44	47	91	
161	内山保 (富士)	41	45	86	176
		46	44	90	
161	中川紀元 (武蔵)	45	45	90	176
		41	45	86	
161	山口澄 (狭山)	42	47	89	176
		42	45	87	
164	井上征司 (大利根)	44	45	89	177
		44	44	88	
164	内山博治 (伊香保)	45	41	86	177
		47	44	91	
164	風見憲雄 (湯河原)	45	42	87	177
		46	44	90	
164	浜洋治 (相模)	46	40	86	177
		45	46	91	
164	村木博司 (東名)	48	39	87	177
		46	44	90	
164	横山鉄男 (相模)	44	44	88	177
		47	42	89	
164	吉田治昌 (亀ヶ崎)	47	44	91	177
		44	42	86	
171	遠藤孝太郎 (我孫子)	41	44	85	178
		48	45	93	
171	大野忠男 (府中)	45	44	89	178
		45	44	89	
171	栗原栄二 (一柏)	43	45	88	178
		43	47	90	
171	高梨光敏 (袖ヶ浦)	43	47	90	178
		46	42	88	
171	森正臣 (鷹之台)	45	46	91	178
		44	43	87	
177	柳沢清 (常陽)	41	45	86	178
		49	43	92	
177	石井勇 (府中)	44	45	89	179
		45	45	90	
177	内山正吉 (桜ヶ丘)	41	44	85	179
		43	51	94	
177	亀井秀男 (真名)	46	44	90	179
		42	47	89	
177	原沢勇 (五日市)	47	46	93	179
		45	41	86	
182	宮本俊雄 (桜ヶ丘)	48	44	92	179
		42	45	87	
182	鈴木太郎 (相模)	47	43	90	180
		45	45	90	
182	鈴木吉次郎 (横浜)	41	45	86	180
		48	46	94	
182	舟山秀治 (多摩)	43	45	88	180
		47	45	92	
182	山藤芳枝 (鎌ヶ谷)	46	43	89	180
		45	46	91	
182	吉川昌 (湯河原)	45	45	90	180
		43	47	90	
187	太田勝郎 (横浜)	46	44	90	181
		44	47	91	
187	片山元 (府中)	45	45	90	181
		47	44	91	
187	菊池一朗 (湯河原)	46	46	92	181
		44	45	89	
187	田島春五郎 (総武)	46	44	90	181
		45	46	91	
187	田中藤蔵 (霞ヶ関)	42	46	88	181
		47	46	93	
187	野原敏男 (青梅)	47	47	94	181
		44	43	87	
187	浜田良雄 (武蔵)	45	46	91	181
		46	44	90	
187	増田栄一 (日光)	50	42	92	181
		43	46	89	
187	山角敬一 (千葉)	45	46	91	181
		45	45	90	
196	斉藤弘植 (霞ヶ関)	44	49	93	182
		44	45	89	
197	島田敏一 (東我孫子)	45	46	91	183
		47	45	92	
197	佐吉元男 (湯河原)	46	43	89	183
		48	46	94	
197	田村政太郎 (千葉)	49	43	92	183
		47	44	91	
197	潤上虎男 (一柴)	46	50	96	183
		43	44	87	
201	天野修次郎 (川崎国際)	46	47	93	184
		46	45	91	
201	荒井賢宗 (相模)	45	48	93	184
		46	45	91	
201	蝦原操 (船橋)	47	41	88	184
		48	48	96	
201	熊倉俊輔 (鎌ヶ谷)	45	48	93	184
		43	48	91	
201	佐々木頂利 (相模)	42	49	91	184
		50	43	93	
206	青木邦夫 (亀ヶ崎)	47	49	96	185
		44	45	89	
206	目崎正勝 (セントラル)	44	47	91	185
		49	45	94	
206	若狭卓夫 (鶴舞)	45	46	91	185
		46	48	94	
209	柴田勝日出 (東京国際)	44	49	93	187
		44	50	94	
210	山下己作 (亀ヶ崎)	46	47	93	188
		46	49	95	
211	渋谷嘉明 (東我孫子)	49	51	100	202
		47	55	102	
212	佐藤与四郎 (湯河原)	53	54	107	217
		51	59	110	
	林陸郎 (大利根)	48	46	94	棄権
	大槻博 (江戸崎)	50	49	99	失格
	小村太郎 (総武)	50	46	96	失格
	鈴木一郎 (千葉)	44	47	91	失格
	西村忠雄 (府中)	46	45	91	失格
	綾井芳一 (小田原湯本)	44	43	87	棄権
	鎌治田正 (霞ヶ関)	47	44	91	棄権
	金子勝吉 (船橋)	40	47	87	棄権
	松村波雄 (天城にっかつ)	50	45	95	棄権
	宮崎三郎 (東京)	40	47	87	棄権
	金田貞二 (藤ヶ谷)	43	42	85	欠席
	北村正則 (サザンクロス)	43	43	86	欠席
	森山鉄雄 (愛蘭600)				失格

第28回関東女子ゴルフ選手権競技

△期　日　10月12日(火)～13日(水)／△コース　東京ゴルフ倶楽部（5803㍎　パー75）／△参加者　137名



2連勝の銀盆を手にした中島恵利華（矢板）

関東女子ゴルフ選手権競技は本年度より予選制を採用した。昨年度のこの大会の参加者数が149名、午前7時30分にスタートしてなんとか日没前に競技を終らせることが出来たが、これ以上、参加者が増大すれば日没までに終了出来なくなる可能性も出て来ただめ、出場資格をＪＧＡハンディキャップ13までだったのを18までに広げ、芙蓉、東京国際の2会場で予選を実施することになったのである。

子選は両会場ともに9月20日に開催されたが、前夜から降り続く雨に両会場とも最悪のコンディション、あちこちにカジュワル・ウオーターの水溜りが出来たり、中には水びたしとなったバンカーも出現したほどだった。

しかし、この悪条件の中をものともせず、女子選手はいずれも目の色を変えて予選に挑戦した。参加者総数が両会場合わせて247名のうち、欠席者は僅かに3名、東京国際の予選では123名全員出席という見事さであった。

強かった雨もスタート後に次第に小降りとなり、後に曇りとなった中を決勝進出を目指して激しくせり合い、芙蓉では77ストロークでトップになった三木恵美子（慶大）をはじめ、92ストロークまでの62名、東京国際でも77ストロークの福井美保（GMG八王子）をはじめ91ストロークまでの62名がそれぞれ予選を通過した。

決勝はこの予選通過者にシード選手14名を加えた137名が参加して東京ゴルフ倶楽部で開催されたが、前日までの雨が嘘のように晴れ上って絶好のゴルフ日和となったものの、長雨の後だけにボールの転がりが悪くて思ったほどの距離が出ず、女性にとってはやや長めのコースが多いだけに、スコアは意外に伸びなかった。

この中で1人飛ばしたのが17才の中島恵利華（矢板）である。ご存知中島常幸プロの妹で、兄と同じく小さい頃からゴルフの英才教育で厳しく育てられ、昨年16才という若さで関東女子に初優勝をとげている。その中島は一年前にくらべるとひと回り大きくなり、かつ見違えるほど女らしくなった上に、ゴルフも一段と大型化していた。

インからスタートして382㍎の10番を難なく2オンして、いきなりバーディーという大型ぶりを発揮してすべり出し、11番は3パットのボギーとつまづいたが、飛ばすばかりでなく、その後はアプローチとパットも冴えてインはイーブン・パーの38。アウトに入って長いミドル・ホールの6番でグリーンを外してボギーをたたいたが、8番121㍎のショート・ホールでは、8番アイアンでピン横2㍎にピタリとつけてイーブンに戻し、最後の9番385㍎のロング・ホールでは、他の女性がウッドを使ってもようとどかないところを、第2打は5番アイアンでグリーン右のラフまで運び、このアプローチを難なくピン50㍍につけて連続バーディーを出し、第1日目を1アンダー・パー74ストロークにまとめた。

中島、14番ホール惜しいパットを外してボギー

2位は5オーバー・パー80に渡辺恵子（高根）三木恵美子（慶大）谷弘恵（藤岡）の三人が並んだが、トップの中島とは早くも6ストローク差。

最終日も絶好の好天に恵まれ、前日にくらべるとコース・コンディションもぐーんと良くなって全般的にスコアのまとまりも良くなって来たが、それでも中島を追い上げるまでには至らず、すっかり中島の独り舞台となってしまった。

前日の2位グループ3人と組んで最終組からスタートした中島は、1番から早くもピンそば3㍍に2オンしてバーディーを出したが、6、7番でグリーンまわりの寄せをミスして連続ボギー。しかし続く8番121㍍のショート・ホールは約5㍍の長いパットを決めて前日同様バーディーをものにし、アウトをイーブン・パーにまとめて相変らず通算1アンダーを堅持、最終のハーフに入って10番のロング・ホールをまたもや2オンしてバーディーを出し、一時は2アンダーとスコアを伸ばした。しかしグリーンがバンカーに取り囲まれたような14番ホールで第2打をグリーンオーバー、そこから寄せたものの、難かしいラインを外して惜しいボギーをたたいた。しかし他は手堅くパーにまとめて逃げ込み、通算1アンダーの149ストロークと関東女子選手権競技初まって以来のアンダー・パーで2連勝を飾った。

2位には前日5位だった19才の中村珠代（函南）が最終の18番ホールで3アイアンで打った第2打が、そのままホールインするイーグルがきいて通算8オーバー158ストロークにまとめて入り、3位には161ストロークでベテランの吉沢キミ子（セントラル）と渡辺恵子（高根）が入賞した。

最終日、豪快なティー・ショットでスタートする中島恵利華、見守るは谷、渡辺両選手

なお、連続出場表彰は次の通り、

15年連続出場　天野妙子（我孫子）
　　別所節子（嵐山）
10年連続出場　吉沢キミ子（セントラル）

昭和57年度関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

東京ゴルフ倶楽部／参加者135名／10月12、13日

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド アウト	第1ラウンド イン	第1ラウンド 計	第2ラウンド アウト	第2ラウンド イン	第2ラウンド 計	合計
1	中島恵利華	矢板	36	38	74	37	38	75	149
2	中村珠代	函南	41	40	81	40	37	77	158
3	吉沢キミ子	セントラル	40	42	82	38	41	79	161
3	渡辺恵子	高根	40	40	80	39	42	81	161
5	三木恵美子	慶大	41	39	80	42	41	83	163
6	高橋良江	東京国際	41	42	83	40	41	81	164
6	谷弘恵	藤岡	39	41	80	43	41	84	164
6	湯原光葉	鳥山城	41	42	83	40	41	81	164
9	石井羽留子	柏	40	43	83	41	41	82	165
9	矢島智都子	南箱根	43	40	83	40	42	82	165
11	田村千代子	鎌ケ谷	40	41	81	41	44	85	166
11	豊井キヨエ	府中	41	42	83	40	43	83	166
11	福井美保	GMG八王子	43	40	83	40	43	83	166
11	村田トシ子	鎌ケ谷	41	42	83	41	42	83	166
15	猪股美恵子	上総富士	42	42	84	41	43	84	168
16	尾関久江	武蔵	37	46	83	41	46	87	170
16	中田朱美	袖ケ浦	47	43	90	42	38	80	170
16	松本京子	日体大	44	43	87	43	40	83	170
19	鳴田万里子	望月	43	44	87	42	42	84	171
19	山崎美津江	富士御殿場	41	46	87	42	42	84	171
21	斎藤美樹	甘楽	43	45	88	39	45	84	172
21	田辺アキ	飯能	40	47	87	44	41	85	172
21	館鼻彰子	慶大	41	41	82	44	46	90	172
21	新田佐喜子	藤岡	42	41	83	43	46	89	172
21	益田道子	相模	45	47	92	39	41	80	172
26	今井美千代	東名厚木	47	42	89	44	40	84	173
26	菅野有子	大相模	45	45	90	42	41	83	173
26	鈴木エツ	大秦野	43	45	88	41	44	85	173
26	田中優子	慶大	43	46	89	42	42	84	173
26	中村静江	東千葉	44	43	87	44	42	86	173
31	山根みどり	日高	44	45	89	43	42	85	174
32	荒山朋子	長野	46	44	90	44	41	85	175
32	大川則子	鹿沼72	43	46	89	45	41	86	175
32	近江利子	嵐山	44	45	89	41	45	86	175
32	佐々木諄子	鳥山城	42	47	89	43	43	86	175
32	佐藤奈保子	日大	42	43	85	43	47	90	175
32	永沢利永子	入間	45	42	87	42	46	88	175
38	杉田千多歌	GMG八王子	42	46	88	41	47	88	176
38	仁科敏枝	皐月佐野	41	46	87	43	46	89	176
38	村井利恵	日体大	47	43	90	40	46	86	176
41	石川淑子	源氏山	40	46	86	43	48	91	177
41	小野岡たき子	大秦野	40	42	82	47	48	95	177
41	大久保清子	川越	48	43	91	42	44	86	177
41	菅谷明子	成城大	47	43	90	43	44	87	177

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド アウト	第1ラウンド イン	第1ラウンド 計	第2ラウンド アウト	第2ラウンド イン	第2ラウンド 計	合計
45	遠藤智子	戸塚	43	48	91	45	42	87	178
45	児玉良子	皆川城	42	45	87	45	46	91	178
45	堀内勝子	平塚富士見	46	43	89	46	43	89	178
45	森美代	鷹之台	45	43	88	46	44	90	178
49	石田雅子	富士平原	47	47	94	41	44	85	179
49	加藤信子	芙蓉	44	44	88	43	48	91	179
49	栗原道子	大厚木	47	42	89	45	45	90	179
49	小坂順子	千葉	43	45	88	46	45	91	179
49	長谷目睦子	立川国際	42	43	85	47	47	94	179
49	八木優子	日体大	44	49	93	44	42	86	179
55	内薗良子	鎌ケ谷	45	42	87	47	46	93	180
55	太田由紀枝	千葉廣済堂	50	42	92	47	41	88	180
55	加藤知子	取手新日本	43	45	88	44	48	92	180
55	高橋典子	鳥山城	49	44	93	45	42	87	180
59	木下多賀	芳賀	43	44	87	45	49	94	181
59	黒沼カホル	鳥山城	45	42	87	47	47	94	181
59	東郷醇子	磯子	45	43	88	44	49	93	181
59	富沢敬子	総武	43	44	87	45	49	94	181
59	原田町子	習志野	46	46	92	44	45	89	181
59	二村正子	富士	44	48	92	41	48	89	181
59	正木英子	立川国際	47	45	92	43	46	89	181
59	宮崎洋子	ノーザン・鎌ヶ原	42	46	88	46	47	93	181
59	和田せつ子	中山	45	45	90	51	40	91	181
68	近藤信子	富士ロイヤル	44	48	92	45	45	90	182
68	嶋田良子	武蔵	45	45	90	48	44	92	182
68	高井寿美子	中山	45	45	90	45	47	92	182
68	高橋千津子	秦野	45	44	89	47	46	93	182
68	萩原瑛子	東名厚木	46	44	90	47	45	92	182
68	牧田雅子	狭山	47	41	88	47	47	94	182
68	宮前慶子	伊勢原	43	47	90	46	46	92	182
75	川島キミ子	芙蓉	45	48	93	44	46	90	183
75	高野南美江	上毛森林	48	50	98	43	42	85	183
75	佐川治子	東京国際	46	50	96	45	42	87	183
75	里見真佐子	府中	43	46	89	46	48	94	183
75	鈴木伸枝	総武	49	45	94	46	43	89	183
75	高田正子	ミナミ菊川	46	43	89	46	48	94	183
75	千代間由美	大秦野	47	45	92	42	49	91	183
75	豊田昭子	芙蓉	47	49	96	40	47	87	184
83	石橋万喜子	霞ケ関	47	49	96	42	46	88	184
83	小田幸子	袖ケ浦	43	46	89	49	46	95	184
83	菅原莞子	鎌ケ谷	47	44	91	47	46	93	184
83	長岡洋子	千葉国際	46	46	92	46	46	92	184
83	林裕美子	大利根	46	46	92	46	46	92	184
88	大谷悦子	大相模	48	47	95	46	44	90	185
88	扇本幹子	東京よみうり	47	45	92	46	47	93	185
88	三枝文子	武蔵野	47	47	94	46	45	91	185
88	根本浩子	日体大	44	52	96	45	44	89	185
88	吉川雅子	富士	46	47	93	45	47	92	185
88	渡辺啓子	習志野	48	45	93	47	45	92	185
94	甘利容子	千葉廣済堂	48	49	97	41	49	90	187
94	岩内園恵	岡部チサン	47	46	93	47	47	94	187
94	小林フサ子	東京国際	45	50	95	46	46	92	187
94	高田幸子	東千葉	45	44	89	50	48	98	187
94	高山弘枝	東京国際	49	48	97	45	45	90	187
94	野崎裕子	東京国際	48	49	97	45	45	90	187
94	森下悦子	大厚木	44	46	90	49	48	97	187
94	山本明子	新千葉	45	47	92	47	48	95	187
102	大形順子	朝霞ジャンボリー	48	48	96	45	47	92	188
103	阿部洋子	高坂	45	48	93	49	47	96	189
103	河合千恵美	慶大	45	49	94	51	44	95	189
103	城田洋子	日体大	45	50	95	46	48	94	189
103	田渕ミツ	富士	45	50	95	46	48	94	189
107	荒川信子	東京国際	46	50	96	46	48	94	190
107	太田育恵	富士ロイヤル	46	48	94	49	47	96	190
107	片山倶仁子	富士チサン	48	47	95	49	46	95	190
107	中野敏子	東名厚木	45	46	91	49	50	99	190
107	仁科良子	長野	46	45	91	45	54	99	190
107	林多英	府中	44	47	91	50	49	99	190
113	井上喜美	横浜	46	49	95	49	47	96	191
113	倉田富美子	桜ケ丘	47	51	98	46	47	93	191
115	伊豆川光世	相模	48	50	98	48	46	94	192
115	生垣栄子	土浦	47	50	97	44	51	95	192
115	後藤千栄子	愛鷹600	50	46	96	49	47	96	192
115	大徳照子	新千葉	47	45	92	51	49	100	192
115	矢作一子	我孫子	49	48	97	47	48	95	192
120	天野妙子	我孫子	47	55	102	45	47	92	194
120	鍛治美智子	狭山	47	50	97	50	47	97	194
120	杉田則子	相模野	50	48	98	49	47	96	194
123	窪田久子	真名	50	50	100	48	48	96	196
123	佐藤光子	茨城	49	54	103	46	47	93	196
123	中藤美津江	磯子	49	49	98	50	48	98	196
123	永海寿美	玉川大	49	54	103	50	43	93	196
127	大石淑子	飯能	50	50	100	45	52	97	197
127	近藤千恵子	鎌ケ谷	45	51	96	53	48	101	197
127	平多房子	芙蓉	50	48	98	50	49	99	197
127	水島三浦子	実践大	50	48	98	49	50	99	197
131	林いさ美	上毛森林	51	43	94	52	53	105	199
132	武藤恵美子	富士	49	43	92	54	55	99	201
133	井上実枝子	新千葉	52	52	104	49	51	100	204
	田辺和江	東名厚木	47	46	93		棄権		
	江崎二糸	佐倉	49	49	98		失格		

連盟常務理事会

加盟倶楽部殿

昭和57年8月31日

関東ゴルフ連盟
理事長　高田市太郎

57年度臨時常務理事会議事録

57年度臨時常務理事会討議事項を下記の通りお知らせします。

日　時　昭和57年8月31日㈫正午

場　所　ＪＧＡ会議室

出席者　高田理事長、西野、中川、細川各副理事長、安藤、藤原、福田彰、福田富市、金丸、河西、木村、古賀、松浦、松野、村田、長沢、斉藤、鈴木、田村各常務理事

――――決　議　事　項――――

1．ＪＧＡ“専任理事”に関する件

高田理事長より、9月9日に開かれるＪＧＡ理事会の議題の一つに「専任理事設置」の提案があるが、これにはＪＧＡの会則を変更する必要があり、そうなれば理事会だけでなく、総会にかけなければならない問題なので、ＫＧＡとしての意志統一を計りたいので会議を招集した旨の説明があり、続いて各常務理事から活発な意見が出され、結局、ＫＧＡとしては

「ＪＧＡの専任理事新設については、ＪＧＡの会則変更につながる問題であり、ＫＧＡとしては賛同致しかねる」との意見を表明することを決めた。

2．ゴルフ場借地に関する法律問題講習会の件

福田富市税対策委員長より、日本ゴルフ場事業協会（ＮＧＫ）との共催で9月8日㈬午後1時半より港区虎ノ門の葵会館に於て「ゴルフ場借地に関する法律問題セミナー」(講師古賀猛敏弁護士)を開く旨報告があり、全員これを了承。

3．公式競技場提供クラブに対する謝礼の件

福田彰競技委員長より、公式競技開催の場合のコース謝礼金は1日100万円、4日間開催の関東オープンに関しては500万円と決っているが、この謝礼金についても再検討したいし、また開催期間中、開催クラブのメンバーを近隣クラブでメンバー並みで引受ける協力体勢も確立したいとの意見が出され、種々検討した結果、競技委員会でその原案を作成し、それを常務理事会で審議することを決めた。

4．入会申請クラブの件

下記3クラブの加盟を承認、これで連盟加盟クラブ総数は328クラブとなった。

長野国際カントリークラブ
オーク・ヒルズカントリークラブ
富士見ケ丘カントリークラブ

5．後援承認の件

茨城新聞社より後援申請のあった「第1回茨城県社会人アマチュア・ゴルフ選手権大会」については、連盟より競技委員長、および競技委員2～3名の派遣を受入れることを条件に、後援を承認することを決めた。　以上

加盟倶楽部殿

昭和57年9月14日

関東ゴルフ連盟
理事長　高田市太郎

57年度第6回常務理事会議事録

57年度第6回常務理事会討議事項を下記の通りお知らせします

日　時　昭和57年9月14日㈫正午

場　所　ＪＧＡ会議室

出席者　高田理事長、西野、中川、細川各副理事長、相山、安藤、天野、藤原、福田彰、福田富市、河西、勝又、勝山、木村、木場、古賀、古茶、小宮山、松浦、松野、村田、斉藤、鈴木、関本、武内、横内各常務理事

――――決　議　事　項――――

議事に先立って安藤常務理事より、富士小山ゴルフクラブで開催した関東オープンゴルフ選手権が無事終了できたことに対し、ご協力を感謝する旨のあいさつがあり、続いて高田理事長より富士小山のご努力に深く感謝の意を表した。

1．昭和58年度競技日程の件

福田彰競技委員長より、資料1の昭和58年度競技日程表案にもとづいて説明があり、現在のところ関東アマチュア選手権決勝競技の会場だけが未定だが、日曜を含めた4日間の競技だけに、36ホールを所有するクラブを対象に年内に決めたいと報告、全員異議なくこれを了承した。

また、グランド・シニアのエントリー・フィー20,000円は引退者が多いのでもっと安くできないかとの提案があったが、福田委員長は従来の開催コースに対するコース謝礼金を値上げの方向で検討中なので、これも合わせて競技委員会で検討し、次回常務理事会に提案することを約した。

2．関東オープン報告の件

福田彰競技委員長より、富士小山で開催した本年度関東オープン選手権の収支概算について、富士小山側のご努力で前売券の販売は今までで最高で、約2,000万円の売上げ増だったが、広告手数料が23パーセントと割高だったこと、及び運営費でギャラリー・スタンドに1,200万円かかったこともあり、剰余金は1,300万円前後にとどまる見込みで、前例に従って約半分をクラブへの報奨金として出すことになると思うので、最終的には約600万円の剰余金が出る見込みであると報告、全員異議なくこれを了承した。

3．新規入会、及び退会クラブの件

伊豆長岡カントリー倶楽部より解散退会の申請があり、これを承認

館山カントリークラブの入会申請書は一部不備な書類が訂正された時点で入会を承認することを決めた。

4．その他

①クラブ対抗チーム構成変更の件

木村常務理事より明年度関東クラブ対抗競技のチーム構成変更について質問があり、福田委員長はチーム構成を満50歳以上のＡクラスを4名（旧3名)、年齢制限なしのＢクラスを4名（旧5名）に変更し、チーム・スコアはこのうちのベスト7合計で争そうことに変更した旨報告があった。

②ＪＧＡ専任理事設置の件

高田理事長、及び西野副理事長より大要次の報告があった。ＪＧＡ専任理事設置の件に関しては、8月31日に開いたＫＧＡ臨時常務理事会で「ＪＧＡの会則変更につながる問題なので賛同致しかねる」旨、決定してこの旨を乾会長に伝えたが、9月9日のＪＧＡ理事会で、乾会長はこの問題は会則変更の必要があるため、一応撤回するとの発言があり、更に同会長はＪＧＡ会則変更の検討を細川護貞氏に委任、12月9日の理事会にかけ、最終的には来年2月の総会に諮った上、専任理事を任命したいと述べた。会則変更については細川常務理事は会則改正のための委員会を組織して検討することを諒解しているので、今後委員会委員を選定して改正案をまとめたいと説明。

③公式戦開催クラブ会員の他クラブ引受お願いの件

福田競技委員長より、従来、日曜を含む4日間開催の関東アマチュア選手権決勝競技では、その期間中、開催クラブ会員を近隣加盟クラブで1組～2組を会員並み扱いでお引受け願っていたが、連盟主催競技は加盟クラブの共同事業であることをご理解いただき、すべての連盟公式競技にこの制度を拡大し、その期間中の会員をお引受け願いたい…と提案、全員一致でこの案を承認可決した。

④日本オープン前売券の件

本年度の日本オープン選手権は関東で開催するので前売券販売等にご協力願いたいと要望があり、また開催クラブ武蔵副理事長の武内常務理事からもご協力お願いのあいさつがあった。

⑤グリーン・システム処理料金の件

袖ケ浦カンツリークラブよりＫＧＡグリーン・システム活用クラブで提出枚数の多いクラブに対しては、処理料金も考慮してほしい旨の提案があったが、計算センターと種々調整した結果

㈠袖ケ浦のように全スコア提出を義務づけたクラブであり

㈡月々の提出スコアが3,000枚を越えるクラブに対しては処理料金60円を5円引きの55円とする。なお、自動読取機(ＯＣＲ)の導入を計画中で、そのためのスコア・シートも作成したが、この場合の処理料金は10円引きの50円とすることができ、モデル・コースを決めて早急にテストし、実現を急ぎたいと報告があった。　以上

加盟倶楽部殿

新規加盟クラブのお知らせ

昭和57年9月22日　関東ゴルフ連盟

昭和57年8月31日現在328クラブ

承認年月日	クラブ名	〒	所在地	理事長	電話番号
57. 8. 31	長野国際カントリークラブ	389-12	長野県上水内郡牟礼村牟礼1313	倉石忠雄	026253－3333
〃	オーク・ヒルズカントリークラブ	287-01	千葉県香取郡栗源町	代行 小島健嗣	047875－3131
〃	富士見ケ丘カントリークラブ	424-03	静岡県清水市宍原1456－2	大石益光	05439－3－3900

退会倶楽部のお知らせ

昭和57年9月14日付　伊豆長岡カントリー倶楽部

(昭和57年9月14日現在327クラブ)

理事長変更のお知らせ

杉ノ郷カントリークラブ　(新)　石井　春水

(旧)　空　　席

連盟理事・同等待遇者新規及び変更のお知らせ

クラブ名	連盟理事		同等待遇者
富士見ケ丘カントリークラブ	佐藤誠一	堤　富士雄	古屋敏夫
麻生カントリークラブ	鈴木英夫	(新)中島豊太郎 (旧)岩永正也	岡本一男

委員会だより

関東ゴルフ連盟が主催していた関東ジュニア・ゴルフ選手権競技は、本年度の大会より連盟とスポーツニッポン新聞社、及び関東高等学校ゴルフ連盟の三者共催に衣替えして開催されました。

もともと日本ゴルフ協会や、関東ゴルフ連盟が主催する各種選手権競技は、いわゆる公式戦として、他の範ともなるべき厳正公平な競技運営を誇るとともに、選手たちにとりましては、アマチュア界最高の栄誉を争そう競技となっておりますが、せっかく単独主催の公式戦として続けて来たジュニア選手権を、ここで三者共催に変更したことに対して、いささか奇異の感を抱かれた方も少なくなかったに違いありません。その間の事情をここでご説明致しましょう。

日本ゴルフ協会、及び関東ゴルフ連盟は早くから次代を背負うジュニア・ゴルファー育成の重要性に着目しておりましたが、実際に育成事業の一つとしてジュニア選手権の開催に踏み切ったのは、関東ゴルフ連盟が今から２年前の昭和55年のこと、日本ゴルフ協会はやっと昨年ジュニア選手権をスタートさせたばかりでした。

それまでのジュニア・ゴルフ選手権といえば、スポーツニッポン新聞社がゴルフ雑誌の自研社から引き継いで開催を続けて来た「全日本ジュニア・ゴルフ選手権」が唯一のジュニア・トーナメントでした。

その間、ジュニア育成の重要性を痛感したＪＧＡは、「全日本ジュニア選手権」に補助金を出し、かつ競技委員を派遣して積極的にその指導に当りました。

しかし、ジュニアの父兄の中には新聞社主催の「全日本ジュニア」にもの足りず、

「ジュニア選手権はＪＧＡ、ＫＧＡが公式戦としてやるべきだ」という声が次第に高まって来たのです。

諸外国の例を見ても、公式戦としてのジュニア選手権を開催しており、しかもジュニアの国際交流も次第に盛んになり、ＪＧＡへの交流申し入れも多くなって来たことから、ＪＧＡ、ＫＧＡの内部からも、

「ジュニア育成はＪＧＡ、ＫＧＡの責務であり当然ジュニア選手権などもＪＧＡ、ＫＧＡ主催の公式戦としてやるべきだ」との意見が強まり、選手権を主催することを前提に、スポニチや高等学校ゴルフ連盟(高ゴ連)などとの間で話し合いを進めることを内定しました。これが昭和54年の始め頃です。

この両者との折衝には主として当時の吉川金重競技委員長が当り、何回となく会談を重ねました。しかし、スポニチには20数年間続けてきた「全日本ジュニア」の実績があり、「何で今さらＪＧＡが出て来るのか」という気持の方が強く、「正しいジュニア育成は厳正な公式戦で…」というＪＧＡ、ＫＧＡの熱意とは大きな喰い違いがあり、この会談は最初から難航に難航を続けました。

この話し合いは昭和55年の春になっても決着がつかず、とりあえずＫＧＡが別個に「ジュニア初の公式戦」とうたって「第１回関東ジュニア選手権」の開催に踏み切り、続いて昭和56年には各地区連盟が一斉に「地区ジュニア選手権」を発足、その全国優勝をかけてＪＧＡの「第１回日本ジュニア選手権」も華々しく開催されました。

結局、スポニチとの話し合いは徒労に終り、別個に全国大会を開催することになったのです。

ところが、そういったジュニアの行事は、どうしても学校の夏休みに集中します。関東の場合を例に取りますと

７月下旬　スポニチの全日本ジュニア予選
〃　　ＫＧＡの関東ジュニア予選
８月上旬　ＫＧＡの関東ジュニア決勝
〃　　スポニチの全日本ジュニア決勝
８月中旬　ＪＧＡの日本ジュニア決勝

と続きます。悪いことにはこのスケジュールの後に、高ゴ連が主催する全国高等学校対抗ゴルフ選手権が一枚加わり、全競技に出場するジュニア選手にとっては、大変なハード・スケジュールとなったことは否めません。新聞、雑誌等のマスコミは、ジュニアの公式戦が始まったことの意義よりも、むしろこの過密スケジュールの方を問題にしました。

「トーナメント・プロよりも過密なスケジュール」「ジュニアの費用だけでウン10万円」「ハード・スケジュールに身体をこわしたジュニアも……」等々……

選手権自体は大成功裡に終了しましたが、こういった反響を元に再度スポニチとの話し合いが再開されたのですが、その矢先、ＪＧＡ、ＫＧＡの窓口として交渉に当っていた吉川競技委員長が日本アマチュア選手権大会の三日目、出張先のホテルで心不全のため急逝されました。誠心誠意、ジュニア育成事業の推進に気を使って来た吉川委員長にとっては、さぞや心残りだったのではないかと思います。

この吉川委員長の後を引継いだのが松野京三競技副委員長でした。ＪＧＡのジュニア委員長に就任するとともに、ＫＧＡにも新設されたジュニア委員会の委員長をも兼ねスポニチ、高ゴ連とを相手にねばり強い交渉を再開しました。

しかし、新聞社主催の競技と、ＪＧＡ、ＫＧＡ主催の公式競技とでは、開催の基本的姿勢に大きなへだたりがあるばかりでなく、細かな運営条件となると様々な相違が見られ、一本化の話し合いには難問が続出しました。

参加資格一つをとって見ても、ＪＧＡ、ＫＧＡが満18歳未満のジュニア選手すべてを対象にしているのに対し、スポニチは全日制の中高校生に限っており、高ゴ連もこの点はスポニチに同調しました。この他申し込み受付の窓口をどこにするか、エントリー・フィーの額、その用途、競技運営、賞品表彰式の順序、……等々細かな手順に到るまでの一つ一つを三者が納得するまで折衝をくり返えしたのですから、交渉の任に当った委員たちにとっては大変なことでした。

こうしてやっと三者の足並みを揃え、一本化に合意したのは、この春先のことです。

このためノーザン錦ケ原で開催することになっていた第３回関東ジュニア選手権の予選は、これまでのスポニチの実績を尊重して急拠浮間ゴルフリンクスに会場を変更、７月26日から29日までの４日間で行なわれました。

この予選の参加申込み数は949名に達しましたが、昨年度の関東ジュニア選手権の参加者が449名だったことからくらべれば、倍以上にふくれ上ったわけで、これを見ても三者共催の効果が早くも現われたものといえましょう。

これでとにかくジュニア・トーナメントの交通整理が出来、過密スケジュールがある程度解消された訳ですが、ゴルフのプレー料金が外国にくらべてはるかに高額な日本では、まだまだジュニア育成に快適な環境とはいえず、この環境づくりもこれからの課題です。ジュニア選手は日本ゴルフ界の次代の中心プレーヤーであり、またリーダーともなるべき金の卵でもあります。今後もＫＧＡとしてはこれらのジュニアを立派なゴルファーに育てるべく努力を続けるつもりですが、加盟クラブの方々もこのジュニア育成にご理解をいただき、ますますのご支援ご鞭達をお願いしたいと思います。

加盟倶楽部御中　　昭和57年９月14日

関東ゴルフ連盟　理事長　高田市太郎

連盟公式競技に対しご協力お願いの事

拝啓　　ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、従来関東アマチュア選手権決勝競技につきましては、層の厚くなった参加選手の都合を考慮致しまして、土、日を含む四日間で開催することとし、開催する倶楽部の会員を近隣加盟倶楽部で１組～２組を会員並み待遇で、分担お引き受け願うことになっております。

つきましては、之を更に拡大してすべての連盟公式競技について、ご協力願うことと致したく存じます。

大変ご迷惑のこととは存じますが、連盟主催の競技会は加盟倶楽部の共同事業の一つであることをご理解いただき、宜しくご協力をお願い申し上げる次第です。

なお、協力願うコースについては、開催倶楽部より利用組数等、あらかじめお願いし、ご了解を得た上、10日前までに氏名等詳細を連絡することと致したく、宜しくお願い申し上げます。　　以上

加盟倶楽部殿　　昭和57年９月22日

関東ゴルフ連盟　競技委員会委員長　福田　彰

昭和58年度倶楽部対抗チーム構成変更の件

関東倶楽部対抗競技は本年度まで満50歳以上のＡクラスが３名、50歳未満のＢクラスが５名のチーム構成で行なわれて来ましたが、先般開かれました連盟競技委員会では運営上、その他の都合により明年度倶楽部対抗競技はＡクラス４名、Ｂクラス４名の計８名、スコアはその中のベスト７合計で争そうことに変更決定、９月14日開催の常務理事会で承認を得ましたのでここにお知らせ致します。　　以上

昭和58年度関東ゴルフ連盟競技日程表

(57.9.20)

月	日	曜	競技名		開催コース
5	9	月	関東アマチュア選手権予選	第１ブロック	多摩
	〃	〃		第２ブロック	平塚富士見
	11	〃		第４ブロック	南総
	9	〃		第５ブロック	江戸崎
	10	火		第３ブロック	岡部チサン
5	16	月	関東女子選手権予選	第１ブロック	中津川
	〃	〃		第２ブロック	柏
5	26	木	関東アマチュア選手権決勝		茨城（東）
	27	金			
	28	土			
	29	日			
6	1	水	関東女子選手権決勝		那須
	2	木			
6	6	月	関東倶楽部対抗予選	東京地区	桜ケ丘
	13	月		埼玉地区	東松山
	〃	〃		千葉地区	鶴舞
	〃	〃		群馬地区	上毛森林
	〃	〃		長野地区	望月
	〃	〃		静岡地区	愛鷹
	〃	〃		神奈川地区	小田原湯本
	14	火		茨城地区	霞台
57	〃	〃		栃木地区	鹿沼
10	1	金		新潟地区	大新潟
7	4	月	関東倶楽部対抗決勝		霞ケ関
7	25	月	関東ジュニア選手権予選		ノーザン錦ケ原
	26	火			
	27	水			
8	3	水	関東ジュニア選手権決勝		相模原
	4	木			
9	1	木	関東オープン選手権		穂高
	2	金			
	3	土			
	4	日			
9	20	火	関東シニア選手権		藤ケ谷
	21	水			
10	26	水	関東グランド・シニア選手権		小金井
	27	木			

関東ゴルフ連盟昭和57年9月男子月例成績表

出場86名／9月16日(木)／於：我孫子ゴルフ倶楽部

氏名	クラブ	アウト	イン	合計	順位
志村幹夫	日立	34	35	69	1
小川透	岡部チサン	35	36	71	2
浅川辰彦	武蔵	37	35	72	3
鹿窪一郎	セントラル	37	35	72	3
額賀靖生	扶桑	37	35	72	3
森茂則	セントラル	38	34	72	3
（以上入賞）					
大出正義	新千葉	38	35	73	
柿原恒	府中	36	37	73	
上代修二	中山	37	36	73	
平山治	江戸崎	34	39	73	
船野明	那須小川	38	35	73	
本山年夫	フレンドシップ	36	37	73	
金沢俊彦	鹿沼	37	37	74	
宮里佑交	飯能	35	39	74	
網中一郎	霞ヶ関	37	38	75	
内山健司	青梅	37	38	75	
笠川喜久男	新千葉	38	37	75	
北村昭夫	東京国際	36	39	75	
河野安男	江戸崎	36	39	75	
田中泰二郎	下野	37	38	75	
中島廣行	東名富士	37	38	75	
前場敏信	鹿沼	35	40	75	
石渡巌	富士平原	36	40	76	
伊藤正治	廣済堂埼玉	36	40	76	
植山鉄次郎	袖ヶ浦	38	38	76	
小出一允	姉ヶ崎	38	38	76	
佐久間義雄	姉ヶ崎	35	41	76	
桜本隆	南総	41	35	76	
田辺嘉一	飯能	35	41	76	
中村正利	東京国際	38	38	76	
能川茂美	戸塚	37	39	76	
松岡和歳	東京よみうり	37	39	76	
松田知二	習志野	36	40	76	
宮辰夫	習志野	38	38	76	
草薙亮一	東名厚木	39	38	77	
高安信行	セントラル	38	39	77	
中野弘治	芙蓉	40	37	77	
松沢淳二	専大	40	37	77	
和田博	五日市	38	39	77	
芦沢新徳	習志野	40	38	78	
大沢正春	廣之台	39	39	78	
岡田光正	嵐山	40	38	78	
鹿島威二	立川国際	38	40	78	
佐久間徹二	袖ヶ浦	40	38	78	

氏名	クラブ	アウト	イン	合計	順位
杉田努	GMG八王子	38	40	78	
杉田成豊	川越	37	41	78	
高橋一男	高崎KG	41	37	78	
高橋俊三	鶴舞	39	39	78	
田代昌義	新千葉	39	39	78	
冨永浩	嵐山	42	36	78	
萩原照久	八王子	39	39	78	
原継雄	東名厚木	41	37	78	
星野光	美野原	39	39	78	
益田一利	セントラル	37	41	78	
宮田逸勉	藤ヶ谷	39	39	78	
飯塚武	千葉	42	37	79	
高原敬武	横浜	38	41	79	
三上康次	我孫子	39	40	79	
山田保太郎	桜	41	38	79	
吉川英明	霞ヶ関	40	39	79	
小林正義	五日市	40	40	80	
鈴木勇紀雄	相模原	40	40	80	
大久保蕃	桜ヶ丘	42	39	81	
西谷晃	新千葉	40	41	81	
野崎哲義	かずさ	40	41	81	
岡部保	習志野	41	41	82	
柴田良三	東京よみうり	37	45	82	
高木信行	烏山城	39	43	82	
田中浩	岡部チサン	41	41	82	
松井滋	皐月	40	42	82	
渡辺敬一	GMG八王子	43	39	82	
池田輝雄	立川国際	44	39	83	
岡野幸男	日高	41	42	83	
門野一男	鶴舞	43	41	84	
前川武英	成田ハイツリー	42	42	84	
安間章浩	東京湾	43	41	84	
（以下10月月例出場停止）					
山田和男	千葉	43	42	85	
吉田幹夫	五日市	43	42	85	
石坂孝善	東京国際	41	45	86	
小野村英昭	東筑波	45	41	86	
高田公夫	岡部チサン	44	42	86	
松村光	岡部チサン	45	41	86	
松本茂	狭山	43	43	86	
山内宗広	五日市	44	42	86	
坂巻清	鹿沼	44	43	87	
笹原孝雄	中津川	47	41	88	

コースレート72.3

昭和57年11月20日発行
発行所　関東ゴルフ連盟　東京都千代田区丸の内1-1-1 TEL.(03)215-0511
編集　広報委員会
発行人　高田市太郎